

■次期さいたま市文化芸術都市創造計画中間まとめ(案)に関する意見のまとめ

1. 審議会及び審議会委員への意見聴取における意見

<第1回審議会(令和元年7月19日開催)における意見>

※色を付けたセル: 次期計画へ反映した意見

議題	テーマ	意見
本市を取り巻く文化芸術の現況と課題	外部組織との連携	・市内には県が設置する施設もあるが、市内の拠点と考えれば、どこの運営だろうが、市民のための文化機能として活かしていくという姿勢で連携をしてはどうか。
		・市と県は、行政が違うので難しさはあるが、できるところから連携していくべき。利用者から見れば、埼玉会館や芸術劇場、文化センターなどは市内にあるので、料金や近さの差というレベルでしか考えていない。
		・浦和レッズはファンの結束力が有名なので、サポーターと連携して文化に取り組み、裾野を広げてよい。また、来年はオリンピックの開催年だが、オリンピックは「スポーツ」と「教育」と「文化」の3つを一緒にやるフェスティバルであり、スポーツの地域クラブが芸術や文化に関して、一つのセクションを持っていてもよい。市内にJリーグが2チームあるのでうまく連携してはどうか。
	計画の成果指標	・現計画の成果指標「さいたま市を『文化的なまち・芸術のまち』とイメージする市民の割合」については、アンケートの問い方によって数値が変わると思う。
		・浦和や大宮はベッドタウンで、文化のイメージを25%に上げるというのは難しい。15%が25%になると言っても、同じ対象者に聞き続ける訳ではなく、そのような点にも難しさがある。
		・平成28年度はさいたまトリエンナーレがあり、29年度の市民意識調査結果は前年度比で2%上がっている。トリエンナーレのようなイベントをやり続けると25%を達成するかもしれないが、どうして25%に目標設定したか論理的に考えても仕方がない。ただの数字遊びになる気がする。
		・文化度の高さとは何かを今一度考える必要がある。海外の某国では、ゴミが平気で道路に捨てられる光景が日常茶飯事だが、日本ではそれがない。こうしたことや、例えば、駅で車椅子の方がいる時に、どれだけの人が手伝うかといった間接的な指標から、文化度の高さを換算することもできるのではないか。
		・成果指標について、多くの選択肢を並列してアンケートを取るよりは、ここだったら「文化・芸術のまち」という点を一つ挙げ、「とてもそう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、まったくそう思わない」と4段階評価にして、「まあそう思う」と、「とてもそう思う」を合わせると何%と、いうように目標を設定すると、かなりポジティブな結果になると思う。
		⇒成果指標の調査方法を、指摘どおりに見直し

議 題	テーマ	意 見
本市を取り巻く文化芸術の現況と課題	計画の成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の成果指標に関して、文化的なものとして注目すべき指標は、L I F U L L HOME's総研が出している「センシユアス・シティ・ランキング」という都市指標である。具体的には、「まちを歩いていて吹き抜ける風を気持ちよく感じた、緑を心地よく感じた」、「駅前から帰る時に赤提灯で一杯飲んで帰った」など、こういうことがあると生活が楽しいだろうなというような項目が指標として並んでいる。残念ながら1回しか調査していないが、1位が東京都文京区だった。その指標が出る前までは、東洋経済新報社が出している定番の「住みよさランキング」で、1位が千葉県印西市、2位が愛知県長久手町で、ニュータウンが上位となっていた。ニュータウンは数値的に住みやすくできている。しかし実際にニュータウンが住みやすいかどうかは別の問題で、区画が大きくて車は走りやすいが歩くと怖い、と感じる人もいるだろう。そこで、「住んで楽しいまちとはどんなまちか」を徹底的に考えて作られたのが「都市指標」である。文化のまちづくりを考えると参考になるのではないか。
	文化芸術の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術の創造拠点が本市は非常に弱い。東京のベッドタウンという意味で本市と比較される千葉市や横浜市にも市立美術館があり、全国規模の美術展が巡回する拠点となっている。うらわ美術館はグラフィックに特化した特殊な美術館である。さいたま市は政令指定都市で、人口が増加し、大宮も住みたい都市ランキングで上位に上がってきているのに、市内に美術館がないのは残念。 ・他の政令指定都市を見ると、新潟市、北九州市、浜松市、仙台市等には立派な文化芸術の拠点施設がある。逆に大阪、川崎、横浜など古い政令市は、もともと府や県の分担でやられているのかなと思う。今は施設の時代ではないかもしれないが、施設に伴い、プロデュース面もしっかりされている都市があるので、先進事例として調べる価値がある。
アンケート及び各種調査の進め方	アンケート手法	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送でアンケートをすると、回答者が特定の世代に集中して意見が偏ってしまうので、学校に協力をしてもらうなど、子どもたちの意見をしっかり集められる手段や、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターなどSNSも活用し、なるべく広い世代の意見が集まる方法で行うべきである。 ⇒さいたま市「子どもの提案制度」で中学生から意見聴取。次回3月の会議で結果概要を報告 ・若者の声は集まりづらいので、ダイレクトに接触するとよい。非常に効果があるのがグループインタビューである。調査費の予算の問題もあるが、この人たちの声が聞きたいと思った人たち5～6人のグループに直接聞いてみたり、普段芸術とか文化の活動に馴染みがなさそうな人たちの声も敢えて聞いてみたりしてもよいのではないか ・「I. 文化芸術都市創造計画の成果指標に関する調査」で、挙がっている海外の都市の規模が大きすぎる。ロンドン、ニューヨーク、パリは、東京と比較する都市である。本市と似たような他都市を調査対象にするべき。海外には「欧州文化首都」という取組があり、年に2都市ずつ選んで、人口30万人からの都市で、年間に様々なプログラムを実施するというしくみでヨーロッパの中を回している。そうした都市が如何なる指標を持っているか調査してもよい。あるいは、さいたま市も入っているCCNJ（創造都市ネットワーク日本）という国内の創造都市と創造農村を対象にしたものの中から選んでもよいのではないか。

<審議会委員意見聴取における意見>

※色を付けたセル：次期計画へ反映した意見

議 題	テーマ	意 見	
① 施策展開の考え方及び ② 基本施策の体系	将来像	・ 現計画のどおりでよい。	
		・ 「文化芸術の創造性によって活力にあふれるまち」を「文化芸術の力を活かした活力あふれるまち」に改める。	
		⇒ 将来像を、指摘どおりに見直し	
		・ 特に「市民等が主体的に文化芸術活動に参画するまち」「幅広い文化芸術に気軽に触れ合えるまち」が重要。市民の中にはとてもレベルの高い活動をされている方も居られる。そういった方々と他の市民が触れ合わせることも必要。	
		・ 改編をしない方が将来像としての価値がある。幅広い視野で捉えた将来像のもと、時代の変化に応じた取組を展開していくことが重要。	
			・ 計画策定から数年しか経っておらず、アンケート調査からも達成感のある結果は得られていないので継続するべき。
	施策 1	・ 「具体的な取組」の「ボランティア」を「サポーター」とし、多様な支援や参加につなげる。	
		⇒ 施策1-1の具体的な取組を、指摘どおりに修正	
		・ 施策タイトル「文化芸術都市の創造のために必要な文化芸術活動の促進」とあるが、誰が必要としているのか不明瞭である。	
		・ 市民の文化芸術活動を促進するため、市内の文化芸術情報を集めたポータルサイトのような仕組や機能が必要。	
		・ 文化協会加盟団体間で、質の高さと市民が親しみやすいかのどちらかを重視するのかで、考え方の相違があり、団体数の減少につながっている。	
		・ 病院や福祉施設などが音楽療法やアートセラピーを実施するための、専門家や謝礼の目安等の情報を提供してほしい。	
			・ SaCLa アーツ等はネット上での情報提供だけでなく、冊子や、事業団の窓口で必要な情報を出力した資料の有償頒布等をしてほしい。
	施策 2	・ 塾通いなどで文化芸術活動から離れてしまう中学生の意見を活かす必要がある。中学生を対象とする「さいたま市キッズダンスフェスタ」は参加枠が非常に小さい。さいたま市は人口が多く、子どもも多いので、キッズダンスフェスタの参加枠を拡充するとよい。	
		・ 教育機関との連携を強化し、アート・イン・スクールを拡大すべき。	
		・ 小学校で取り上げている通船堀は多くの市民に知られているが、学校教育で活用する機会が少ない市立博物館やうらわ美術館は知らない人が多い。	
		・ 施策タイトル「感性の向上」は一方的で押し付けている印象があるため「感性の醸成」とすべき。	
		⇒ 施策 2 の施策タイトルを、指摘どおりに修正	
・ 施策2-1-1未就学児の取組には「親子で参加できる」というような表記を加える。			
・ 施策2-1-2取組例として、「市内全ての小中学校で美術や音楽を体験する機会を提供する」など踏み込んだ表現としてはどうか。			
		・ 施策2-2の具体的な取組は、2つある「具体的な取組」を「子どもに向けた鑑賞・体験・発表機会の充実」に1本化し、総合的に評価するとよい。	
施策 3	・ 神輿の木組みの技法を紹介するなど、子どもたちが興味を持つようなコンテンツの充実が必要。		
	・ 歴史や文化芸術資源の掘り起こしとともに、視点を変えながら広くその魅力を伝える必要がある。市民が「自分ごと」と捉えられることができるよう工夫することが必要。		

議 題	テーマ	意 見
① 施策展開の考え方及び ② 基本施策の体系	施策3	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術の継承と発展」とあるが、施策展開や具体的な取組に「発展」の要素を盛り込む。 ・大きくなってからだに参加しづらいので、学校教育のなかで民俗芸能を知る機会が持てるとよい。 ・文化の継承や発展については、具体的な連携の仕方を示す。 ・継承の支援として、日頃の練習のための場所や活動費の支援が必要。
	施策4	<ul style="list-style-type: none"> ・施策4-3に若者が親しみやすいSNSの活用を盛り込む。若者にはチラシよりもツイッターやInstagramの方が情報収集ツールとして浸透している。 ・「具体的な取組」に社会貢献的な要素を加える。クラウドファンディングやヘッドネーションのように、やりやすいことから社会貢献に取り組んでいる若い世代の価値観を活かすことができる。 ⇒施策4-3の具体的な取組に「多様な参画を促進する仕組みづくり」を追加 ・より多くの人を文化芸術活動に巻き込んでいくことが重要。たとえば、さいたま国際芸術祭で小学生の絵を飾ったり、PTAや区民会議による見学ツアーを行うなど、多くの市民が文化芸術活動を自分事と感ずることができる機会を提供すべき。 ・市民が文化芸術を身近に感じるためには、親子が安全で気軽に参加できる取組や、市民ミュージカルを創るとよい。地域の祭のように、市民が少しでも関わる仕組みづくりが必要。 ・市内で様々な活動が行われているが認知度が低い。情報発信の強化が必要。 ・時間や金銭的余裕のあるシニア、週末しか時間の取れない現役世代や子どもなど、多様なライフスタイルに合わせて、様々な文化芸術機会が提供されるとよい。 ・市内の文化芸術活動について、絵本の読み聞かせ会などは平日の開催が多く、働きながら子育てをしている世代には参加しにくい印象がある。車を利用しない市民でも参加しやすいよう、交通アクセスのよい場所で開催されるとよい。 ・「理解及び関心の促進」は市民に分かりやすい表現に改める。 ⇒施策4の施策タイトルを「理解や関心の促進」に修正
	施策5	<ul style="list-style-type: none"> ・施策5-5では、浦和画家・高田誠の作品鑑賞など、学校教育のなかでも浦和画家を取り上げていくことが必要。 ・「漫画」についてはあまり知られていないため取組の強化が必要。 ・「文化芸術資源」を「地域資源」とすることで対象を広げる。 ・岩槻人形博物館の整備に関連したワークショップに参加した。建物の壁を塗るなど、体験を通じて施設への親しみが沸いた。様々な文化芸術資源についても、市民が自分ごとと思えるような機会を提供することが必要。 ・文化財の価値を伝えるためにも活用は重要。 ・岩槻の人形や大宮の盆栽など、文化芸術資源の認知度に地域差がある。今後は、広く市民が「さいたま市の特徴」として認知するようになることが重要。さいたま市民の誇りとして感じてもらえるような取組が必要。 ・盆栽、漫画、人形、鉄道、それぞれ単独で振興するには限度がある。文化芸術資源の組み合わせで相乗効果をはかることが必要。大宮盆栽美術館、漫画会館、人形博物館、鉄道博物館の4つの施設を連携させ、市内周遊の仕組みをつくとよい。 ・施策5-2「関連分野との連携」にも係るが、医療マンガに人気がある。 ・岩槻人形博物館で、学芸員実習の受け入れをしてほしい。 ・「漫画」はメッセージ性の高いモノのほうが、子どもたちにも伝わり易い。 ・食文化にも注目し、ウナギやうどん、冷や汁などについて、文化的な背景まで伝わるよう取り組む。

議 題	テーマ	意 見
① 施策展開の考え方及び ② 基本施策の体系	施策 7	<ul style="list-style-type: none"> ・産業振興でいうチャレンジショップのように、クリエイティブな人々が集まり、活動する場づくりにつながる文言を盛り込む。 ・横浜市のようにクラウドファンディングの活用や、コワーキングスペースの展開を検討するとよい。 ・ミューザ川崎のように、さいたま市を代表する文化施設があれば、文化芸術に親しめる都市イメージにつながる。 ・浦和博物館など歴史的建造物を活かして市民が集まれる文化拠点ができる、他市に負けないものができる。 ・市内の文化施設が共通テーマで特別展を開催するなど、街巡りを楽しめるような取組が必要。 ・アニメ作品の舞台になっている場所が多いので活用すべき。 ・病院や福祉施設、こども病院等と連携し、ワークショップなど心のケアにつながる取り組みを展開するとよい。
	施策 8	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな基本施策とするよりも、施策全体に係るものとして整理してはどうか。 ・近年では他分野との連携が重視されているので、現計画の「新たな視点」は基本施策の全てに関係するものと位置づける。 ・施策全体にかかるように整理すべき。 ・基本施策を推し進めるものとして全体に関わるように整理すべき。 ・「文化芸術と関連分野との」という表記を「教育、観光、健康福祉、都市計画などとの連携を重視し」と改める。 ・基本施策として追加することに異議はない。まずは基本施策として取り組み、その後の進捗状況にあわせて改編するとよい。 ・「関連分野」では分かりづらいので、「教育・観光などの」のように具体的に明記する。それにより関連する所管の当事者意識を促すことができる。 ・基本施策として独立させることで、実効性を持たせることができ、さらに、成果指標により進捗を管理することもできる。 <li style="background-color: yellow;">・文化芸術基本法の改正を受け、多様な分野の連携を施策として追加し、社会的変化に対応した方針を明確に打ち出すべきである。 <li style="background-color: yellow;">⇒施策 8 として、「文化芸術と多様な分野との有機的な連携」を新たに追加 ・関連分野の説明として「新しい技術との連携」なども盛り込む。産業振興や災害対応などにも寄与することで豊かな文化につながる。 ・市内の県立施設や私設の文化施設、企業との連携を目指す。市内回遊を向上させるため、循環バスを展開するとよい。 ・「ITを活用した都市計画との連携」を盛り込み、県内企業との連携を推進する。 ・産業との連携という視点から、オリンピック・パラリンピックのレガシーとして多言語対応に取り組むべき。 ・観光と連携し、岩槻人形博物館や大宮盆栽美術館をめぐる観光ツアーを誘致するとよい。 ・計画改訂のポイントなので、連携する分野を具体的に表現する。 ・「具体的な取組」に「連絡会議の設置」を盛り込む。たとえば災害復興支援として文化芸術による心のケアを提供するため、福祉や防災分野、バス協会など企業や団体と日頃から情報共有しておくことが必要。また、文化芸術関連団体やNPO等と、有事の際の文化芸術の活用について話し合う機会を設けることも重要。 ・アーティストと信頼関係を構築することが重要。福祉施設でのアウトリーチ等、多様な分野と連携し、文化芸術を活かした取組が可能になる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・基本施策の体系の「具体的な取組」は、全般的にもっと分かりやすい表記にすべき。英語による表記も分かりやすい表現に改める。

議 題	テーマ	意 見
③重点プロジェクト	重点プロジェクト1	・解説文の「文化芸術を活用した産業の振興などを通じて」の部分は、施策8の追加に伴い表現を改めるべき。その際、施策8の「多様な分野」との表現は、解説文において「教育、観光、健康福祉、都市計画などと」と具体的に表記した方がわかりやすい。 ⇒重点プロジェクト1の解説文を、指摘どおり修正
		・主な取組の例として「国際的な芸術祭の開催」を挙げているが、国際芸術祭に限定せず、「国際的なイベント」のように、より広くさいたま市の文化芸術資源を活用する表現に改めるべき。 ⇒重点プロジェクト1の主な取組を「国際的な文化芸術事業の推進」に修正
		・盆栽に関する学会を開催してはどうか。津田塾大学の菅靖子先生が盆栽とジャポニズムの研究をされている。
		・抽象的でわかりにくいので、具体的な取組が伝わるようなタイトルに改編するか、主な取組に具体例を示す。
		・「人材」は管轄下に置いた人に対して使う印象があるため表現を改められないか。 ⇒「人材」という言葉は、市の他の計画等でも用いられていることから、一般にも浸透している表現と判断し、修正しない。しかし、市民と行政が対等な関係にあることを明確にする意味で、重点プロジェクト2の解説文に「市民等との協働により推進」との表現を付記
	重点プロジェクト2	・芸術家などの創造活動を行う人も、文化芸術を支える人も、「人材」という同じレベルで表記されており違和感を覚えるため、表現を修正すべき。
		・様々なコーディネートをしてくれる専門員を庁内に配置し、「市民窓口」を設置してほしい。
	重点プロジェクト3	・「盆栽」「漫画」「人形」「鉄道」の4つを文化資源としているが、「4つをはじめとする市の多様な文化資源を」という表現にする。
		・さいたま市の魅力ある資源として「盆栽」「漫画」「人形」「鉄道」を挙げているが、最も肝心な資源は市民である。さいたま市の文化芸術の核となるのは、市民による文化芸術活動であり、そういった視点を重点プロジェクトのコアと位置づける必要がある。
④成果指標	指標内容	・さいたま市総合振興計画の成果指標（案）を採用してよいのではないかと。 ⇒成果指標を、指摘どおりに見直し
		・調査する際に、四択（そう思う、まあそう思う、あまり思わない、思わない）にしたり、施策の対象となる活動をアイコンで表現することなどにより、回答しやすくなるのではないかと。
		・高松市の成果指標のようにシンプルでストレートな方が、市民には分かりやすい。
		・さいたま市総合振興計画の指標（案）の「文化芸術に親しめるまち」は、「文化芸術に親しむ機会がある」と表現した方が、市民からポジティブな回答が得られやすい。
		・「文化芸術に参加するための選択肢が多いと思いますか」や、「文化芸術活動へのアクセシビリティがよいと思いますか」など、市民が文化芸術に関わりやすいと思っているかを問う指標とする。
		・文化芸術に触れないことの方が難しい時代である。文化芸術を自分事として捉え、積極的に関わる人たち、つまり、まちのことを自分事と考えている人たちの割合を指標とすべき。
		・さいたま市総合振興計画指標（案）の「文化芸術活動（鑑賞を含む）を行う市民の割合（過去1年間に1回以上の文化芸術活動（鑑賞を含む）を行った市民の割合）」は、必要性を感じない。

議 題	テーマ	意 見
④ 成果 指標	指標内容	<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画の指標のほか、策定予定のアクションプランの評価としてアウトプット指標を活用するとよい。
		⇒成果指標の見直し
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの活性化に関する評価について、例えば、ボランティアの登録数というような定量的なアウトプット指標もあってよいが、当時に、定性的な指標として、市内での取組事例を情報収集することも必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット指標は単年度での評価ができないので、長期間記録し一定の期間を経た段階で評価していくことが必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数やイベントの開催数など定量的な指標があると、文化芸術に詳しくない市民でも成果が分かりやすく、説得力を持たせることができる。
		⇒成果指標を、指摘どおりに見直し
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に関するプロポーザルの参加企業数など、さいたま市の文化芸術に興味を示している企業の数を指標としてもよいのではないかと。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が文化的な活動をしたか振り返ることのできるような質問にするとよい。「自分事」の方が回答しやすいし、そのような質問をされることで、市民の側も、文化芸術に関する意識が向上するのではないかと。
		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市総合振興計画の成果指標（案）にある、文化芸術に取り組む人と、鑑賞する人とを分ける考え方に問題がある。さいたま市の文化芸術としては、取り組むことと鑑賞することのどちらも楽しめる市民を増やすことが重要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・コンテストへの出品点数やイベントの来場者数など、アウトプット指標は必要。市が取り組む文化芸術事業について、より多くの市民に来てもらう、知ってもらうという目標を関連部局等と共有し、そのために最適な成果指標を募るとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術施策に関する様々な調査を活用することを念頭に、成果指標を検討するとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画の3つの指標の下に、さらに関連する指標を設定するとよい。
		⇒成果指標を、指摘どおりに見直し
		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を設定した場合、数字を上げること自体が目的になりかねない。来場者数が少なくても、人々にどのような影響を与えたのかが重要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市総合振興計画の指標（案）を踏襲することでよい。ただ、「歴史文化資源に愛着を感じ大切に思う市民の割合」を調査する際は具体例を示す必要がある。また、「歴史文化資源」を「地域の文化財」と表記すると分かりやすい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・基本施策毎に指標を設ける。施設の利用率や利用者数、イベントの開催数といった客観的な指標は必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画の指標（案）については、具体例を挙げる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各施策に指標を設ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市の文化芸術活動に興味を示す企業の数を指標に取り入れられないか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術に親しめる」を「文化芸術を楽しむまち」に改められないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・実績値を指標にすると、数値を上げること自体が目的になってしまうことが懸念される。 		
調査方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に調査を行う際は、指標となっている「文化芸術に親しめるまち」についてダンスやお芝居など、子どもでも分かるように具体例を挙げる必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市は文化施設が充実しているので、たとえば調査票に市内の文化施設の写真を盛り込むと、文化芸術が市民の生活に身近なものも指していることが伝わるのではないかと。 	

議 題	テーマ	意 見
④ 成果 指標	調査方 法等	<ul style="list-style-type: none"> ・調査する際に、四択（そう思う、まあそう思う、あまり思わない、思わない）にしたり、施策の対象となる活動をアイコンで表現することなどにより、回答しやすくなるのではないかな。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術活動」という言葉では市民にはわかりにくいので、具体例を示すことが必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「とてもそう思う」「そう思う」という人の主観に頼る評価の仕方は、回答しにくい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域を問わずに文化芸術への参加状況を調査すると、アクションを起こしている市民の割合を把握できる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術」というとハイカルチャーのイメージがある。地域の祭への参加なども、文化芸術活動への参加として拾えるような調査をすべき。
		<ul style="list-style-type: none"> ・活動はしていなくても、文化芸術を誇りに思っている人たちも調査する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働型の取組や、そのための場を設け、そこに参加した市民の数が調査できると、主体的な活動を行っている人の割合が分かる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・指標に対する現状値を把握し、分析することこそが重要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各基本施策に成果指標を設け、たとえば市民の「アクティブ度」や「パッシブ度」、コミュニティの広がりの意味する「文化のつながり度」などとしてレーダーチャートで整理・分析すると、計画全体の評価ができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術」の範囲や「文化芸術活動」の中身を具体的に示す。
		<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な言葉はできるだけ日本語で表記し、市民が分かりやすくすることが必要。
		課題 1 文化芸術都市としての都市イメージの構築
<ul style="list-style-type: none"> ・調査する際に、四択（そう思う、まあそう思う、あまり思わない、思わない）にしたり、施策の対象となる活動をアイコンで表現することなどにより、回答しやすくなるのではないかな。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画の指標のほか、策定予定のアクションプランの評価としてアウトプット指標を活用するとよい。 		
<ul style="list-style-type: none"> ⇒成果指標の見直し 		
<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット指標は単年度での評価ができないので、長期間記録し一定の期間を経た段階で評価していくことが必要。 		
課題 2 文化芸術の力を活かした都市づくり	福祉との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市に拠点を置く「NPO法人あいアイ」は長年、年齢、性別、国籍、障害の有無を問わない創造活動と、その成果を障害者の自立の一助するための活動を続けており、海外での展示等も行っている。作品が高く評価され買い取られる作家もいる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・（株）NHKビジネスクリエイトでは、スペシャルオリンピックス日本・東京（知的障害のある人たちへスポーツを通じた支援を行う団体）のオフィシャルスポンサーとして、ポスター制作やボランティア活動など、年間100万円ほどの支援を実施。

議 題	テーマ	意 見	
課題2 文化芸術の力を活かした都市づくり	福祉との連携	・スペシャルオリンピックス日本では、ダンスや絵画などの文化プログラムも展開している。スペシャルオリンピックス・埼玉と連携ができるのではないかな。	
		・NPO法人等既存活動を支援するとよい。長年活動を続けているNPO法人あいアイでも、展覧会会場の確保や集客、活動資金のための寄付等に苦慮しているという。スペシャルオリンピックス日本・東京も、参加団体が打合せするための会議室や、練習場所の確保、指導者の確保が難しいとの悩みを抱えているようだ。	
		・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」を踏まえ、障害者の文化芸術活動の振興に特化した計画を、次期計画とは別に策定するのか、市の方針を決めて置く必要がある。個人的には、次期計画の中で障害者に向けた施策の充実を図るべきと考える。	
		⇒委員意見を踏まえ、今後、施策4「文化芸術に対する理解や関心の促進」施策7「文化芸術活動の場となる施設の充実」の次期計画本文を修正・追記	
		・障害者に向けた文化芸術体験は目的が異なり、全てにおいて一緒に取り組むことが良いとは限らない。事業内容や目的によって検討すべきである。	
		・アート療法や音楽療法を拡充する必要がある。専門家やサポートするボランティアなどの情報を発信すべき。	
		・アーツカウンシル設置により、障害者に向けた体験の充実が期待できる。	
	教育との連携	・市民会館おおみやで、障害者向けのプログラムを展開すると良い。	
		・より多くの子どもが体験出来るように、アート・イン・スクールを充実するべき。	
	産業との連携	・アート・イン・スクールの開催数を増やすべき。	
		・料亭での人形展など、地域振興に積極的な企業と連携し、取組を展開するとよい。	
		・県内の「すごい場所」「すごい人」「すごいモノ」を紹介した番組を、NHKさいたま放送局のHP上で紹介しており、今後、イベント展開も検討している。	
		・鉄道博物館との連携による「おやすみ日本」の開催など、公益社団法人さいたま観光国際協会の協力により、企業間での連携が図りやすくなった。	
	その他	・企業との連携によるIT技術の導入を次期計画に盛り込む。サイネージ等を活用し文化施設の最寄り駅での情報発信や、QRコードでの多言語対応等。	
		・計画本文を見ていると、「幅広い世代」が文化芸術を楽しめるようななどの記載が散見されるが、「世代」を幅広くするだけでは狭い印象を受けるので、世代や、性別、障害の有無など、「ありとあらゆる」人が文化芸術を楽しむという趣旨の表現に変えてはどうか。	
		・次期計画に「多様な分野との連携」を打ち出すのなら、ダイバーシティなどの文言を盛り込むと、施策を展開しやすい。	
			⇒委員意見を踏まえ、今後、施策4「文化芸術に対する理解や関心の促進」施策7「文化芸術活動の場となる施設の充実」の次期計画本文を修正・追記
			・「防災」分野との連携も検討してほしい。たとえば災害復興支援として文化芸術による被災者への心のケアを実施するため、福祉や防災分野、バス協会など企業や団体と日頃から情報共有しておくことが必要。また、文化芸術関連団体やNPOなどと、有事の際の文化芸術の活用について話し合う機会を設けることも重要。

議 題	テーマ	意 見
課題3 東京 2020大会 までに構築 されたレガシー の活用	レガシー の活用 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト、ハードともに、レガシーとしてどのようなものが創出されたのか東京2020大会後に整理しないと、活用策は見いだせないのではないか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックを契機に障害者に対する意識が大きく変化し、それがレガシーとなる。パラリンピックのレガシーを活用し、文化芸術の場でのバリアーを無くしていくことを計画に盛り込むべき。
		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市の強みである「市民の力」を将来も発揮できるようなレガシー活用をするべき。
		⇒レガシー活用方針（案）
		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま国際芸術祭のサポーターが、大会後も継続的に活躍できる環境を整えるべき。
		⇒レガシー活用方針（案）
		<ul style="list-style-type: none"> ・岩槻人形に関する連続市民講座や、盆栽アカデミーの継続等、人材育成が求められているので、人材育成の観点をレガシー活用に取り入れてはどうか。
		⇒レガシー活用方針（案）
		<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020大会に向けて、市の広報物や主要駅に設置された案内版等を多言語で表示したり、QRコード等、新しい技術やICT技術を活用したり様々な取組がされているはずなので、それらはレガシーとして活用するべき。
		<ul style="list-style-type: none"> ・国際芸術祭の作品を県の施設で展示するなど、他の施設との交流を継続することで、連携体制の構築につながる。
<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックなど国際的なイベントを通して、訪日外国人との交流機会が増える。レガシーの活用方針として、国際交流に対する市民意識の発展も盛り込むべき。 		
⇒レガシー活用方針（案）		
課題4 文化芸術の 創造拠点 となる施設 の拡充	—	<ul style="list-style-type: none"> ・彩の国さいたま芸術劇場は一般市民から見ると芸術性の高すぎるプログラムが多い。一般市民にも親しみやすいプログラムが増えるとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市は美術と音楽が似合う街なので、埼玉県立近代美術館規模の市立美術館があると、文化芸術に係るハードが充実する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・浦和には市民オーケストラがある。音響に配慮したホールがあれば、フランチャイズ制を導入した運営も可能ではないか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・アクセスしやすい場所に文化施設があるとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化芸術活動を活性化させるため、場の拡充が必要。
		⇒拠点機能再分類方針等を「施策7」計画本文に追記
		<ul style="list-style-type: none"> ・博物館や美術館と線引きしないような、文化拠点を整備してはどうか。閉館してしまった東京・青山の「こどもの城」のように、一流のものに触れることができ、市民が参加できる活動の場でもあり、かつ地域の歴史にも触れることが出来る、総合型のミュージアムを検討するとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「市民の平均年齢が若い」「子どもの教育に対する意識が高い」「文化的な活動に参加している市民が多い」「学校の文化活動が盛ん」といった、さいたま市の特徴を活かし、市民の絆が深まる様な場を提供すると、さいたま市の魅力につながる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・政令指定都市として目玉となる美術館が必要。
		⇒不足機能の研究・検討を「施策7」計画本文に追記
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が文化芸術を身近に感じられる環境を整えるためにも、市民が気軽に利用できる施設が望ましい。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に練習や作品作りができる場があるとよい。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・文化センター等の文化芸術活動の拠点となる施設には、芸術監督を配置すべき。 		

議題	テーマ	意見
課題4 文化芸術の創造拠点となる施設の拡充	ー	・文化センター、市民会館おおみや、市民会館うらわの3拠点化に当たり、各施設にプロデューサーを配置できるとよい。
		・政令指定都市としてアートセンター機能がある美術館やギャラリー等が必要。
		⇒不足機能の研究・検討を「施策7」計画本文に追記
		・文化芸術を市民に広げるため、交流機能の充実が重要。文化創造拠点として、工作機械等を備えたワークショップの場「ファブラボ」や、カフェといった交流機能を併設し、運営を担える人材を配置することが必要。
		⇒不足機能の研究・検討を「施策7」計画本文に追記
課題5 文化芸術都市の創造に向けた推進体制の構築	アーツカウンシルの設置	・アーツカウンシルの設置に賛成。次期計画では、具体的な活動内容まで踏み込んでほしい。
		⇒アーツカウンシルのような専門組織の導入を目指すことを計画本文に追記
		・文化芸術に関するさいたま市のブランド化を図るためには、アーツカウンシルを設置し、新しい取組を展開すべき。
		⇒アーツカウンシルのような専門組織の導入を目指すことを計画本文に追記
		・アーツカウンシルの体制をいかに構築するかも重要課題である。仮に、事務局を文化振興事業団内に設置した場合は、行政からの独立性が保たれるのか疑問である。
		・アーツカウンシルは、行政からの独立という制度趣旨から、市の外部に設置すべき。他自治体の例では、自治体の外郭団体である文化財団内に事務局を設置する例がほとんどであるが、さいたま市で設置する場合は、よく検討してほしい。
		・アーツカウンシル事務局を事業団に設置した場合は、地縁による利害関係に左右されやすく、独立性が確保できる懸念される。
		・アーツカウンシル事務局を事業団に設置した場合は、利益相反の観点から、事業団の自主事業について、アーツカウンシルに助成金を申請できなくなるという弊害も懸念される。
		・事業団がアーツカウンシルの事務局機能を担うと、広報活動が重複してしまう弊害も懸念される。
		・アーツカウンシルを事業団に設置した場合は、アーツカウンシルのカウンシルボードと事業団理事会とで、ダブルスタンダードになりうることも懸念される。
		・東京都では、東京都歴史文化財団に対して、文化施設の指定管理料のほか主に五輪招致および五輪文化プログラムの事業費として、別途、財団内に設置しているアーツカウンシルに公費を支出している。この公費は、アーツカウンシルの主催事業や、(都と)アーツカウンシルおよび文化施設との共催事業を実施するための事業費として執行されており、いずれも都から財団に支出される公費ではあるが、指定管理料と自主事業費とのダブルスタンダードになっている。そのため、経理事務が複雑化し、事務作業の負担増につながっている。
		・アーツカウンシルを設置した場合、文化芸術に理解のある企業とのネットワークを持つ人材も配置した方がよい。
		・アーツカウンシルを設置した場合、専門家の発想を実現するためには、事務局に機動力の高い人材をスタッフとして配置する必要がある。
・仮に事業団にアーツカウンシルを設置した場合、開設当初に事業団が担えるのは事務局機能であり、プログラムディレクターやプログラムオフィサーは、別途採用等が必要である。		
・アーツカウンシルを設置した場合は、外部から資金調達できる人材を理事に置くことが必要。		

議 題	テーマ	意 見
課題5 文化芸術都市の創造に向けた推進体制の構築	アーツカウンシルの設置	・アーツカウンシルに最低限必要な人員は、プログラムディレクター1名（ベテランを推奨）、プログラムオフィサー3名（30代以上の若手を推奨、音楽、演劇・ダンス、美術各分野に1名ずつ）に加えて事務局職員数名。
		・本来ならばアーツカウンシルは事業を行う組織ではないため、パイロット事業を行うのであれば、助成部門と事業部門のスタッフを分ける必要がある。
		・アーツカウンシルを設置して、市の方針や文化芸術に関する専門的な知識をもってコーディネートできる担当者が必要。
		・アーツカウンシルを設置し、S a C L a アーツのような文化芸術に関するサポーターの充実を図るべき。
		・アーツカウンシルが専門的見地から助成の審査を行うことで、多様なイベントの開催や人材育成につながる。
		・アーツカウンシルが政策評価するのなら、市内各地の意見を反映できる仕組みについても検討すると良い。
		・アーツカウンシルに美術の専門家を配置し、市民向け美術展等の重点事業の審査を担ってもらってはどうか。
		・アーツカウンシルの機能としては、補助金審査、事業評価と政策課題の調査研究を中心にするべき。ただし、国際芸術祭は継続することに意味があるので、パイロット事業や重点事業の企画・立案・実施もアーツカウンシルに担ってもらってよい。
		・アーツカウンシルの機能（案）のうち、地域コミュニティにおける相談窓口は、生涯学習的な市民活動の相談窓口と誤解されるので、アーツカウンシルの機能としては不要だと思う。
		・アーツカウンシルが担う機能として、政策課題の調査研究だけでなく、行政に対する政策提言機能も加えるべき。
		・愛媛県では、愛媛大学にアーツカウンシルを設置。特任助教が文化芸術に関するコンサルテーションを担当している。市内、県内の大学と連携し、調査研究機能を委託することも検討してよいのではないか。
		・仮に事業団にアーツカウンシルを設置した場合、開設当初に担える機能は、「補助金審査」「事業評価」「市民のコンサルテーション」であり、「政策課題の調査研究」や「パイロット事業や重点事業の企画・立案・実施」の機能を担うためには、そのために、人材を増員し、体制を強化する必要がある。
		・仮に事業団にアーツカウンシルを設置した場合、補助金審査に関して、補助制度の構築や基準づくりについて、専門家や実務経験者の力を借りる必要がある。
・アーツカウンシルに、他の自治体と連携する仕組みがあると、さいたま市の活性化につながる。		
その他	計画全体	・計画を見ると、全体的に文章の表現が堅苦しい。市民にわかりやすい文章に改めるべき。

<第2回審議会（令和2年1月28日開催）における意見>

※色を付けたセル：次期計画へ反映した意見

議 題	テーマ	意 見
基本施策の体系	施策8	<ul style="list-style-type: none"> ・文化振興課だけで取り組める事柄ではないため、施策展開の方向性は抽象的な表現とすべき。 ・「連絡会議を設置する」とか、「多様な文化と協働による実施計画を策定する」とすべき。
		<ul style="list-style-type: none"> ・他の施策と表現をそろえて、「（連携のための）調査や情報収集」とすべき。連携に向けて、文化芸術に関する市内の取組状況を把握する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・連携先として教育分野や福祉分野などがある。実施計画を策定する際は、関連部局と協議を行うべきである。
		<ul style="list-style-type: none"> ・連携を専門的に行う人を置くためにも、新たな施策として追加するべきである。
		<ul style="list-style-type: none"> ・有機的な連携とは、効率的・効果的な連携を意味していると思うので、各セクションの代表を集めた連絡会議を構築し、その会議のなかで年間何本連携プロジェクトができるかを検討すべきである。 ・多くの事業に取り組んでいるにもかかわらず、市民に知られていないことが問題である。そのためにも、庁内の連携により効果的・効率的に事業を推進すべきである。
		<ul style="list-style-type: none"> ⇒施策8-1「多様な分野との連携体制の構築」の「施策展開の方向性」に反映 ・施策タイトルを「文化芸術と多様な分野との有機的な連携」ではなく「多様な分野と文化芸術の有機的な連携」とすべき。 ⇒施策タイトルを、指摘どおりに見直し
重点プロジェクト	重点プロジェクト1	<ul style="list-style-type: none"> ・国際芸術祭は、市民が目指す大型イベントとして、具体的に表記すべきである。主な取組の例として「国際的な芸術祭」を追記すべきである。 ・市として国際芸術祭を育てていく気があるのであれば、次期計画にも具体的に示しておくべきである。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒主な取組「国際的な文化芸術事業の推進」の取組例に「国際芸術祭等」を追記
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの結果によると、広く発信すべき文化芸術として「音楽」が第3位となっている。施設が整っているので、市民活動を連携、組織化して、市の交響楽団としてはどうか。アンケートの結果を活かす意味でも、次期計画に盛り込んで欲しい。 ・さいたま市文化センターで行っている楽器演奏のためのプログラムなどを取組例として明記すべき。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒今後、計画本編の各施策の取組例に記載
	重点プロジェクト2	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の分野でも、クラシックのほかヒップホップなど様々なものがあるので、多様性に配慮した記載をすべき。
		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市の文化の特徴は「市民参加」にあり、その実態と施策が結びついていない。「多様な分野との連携」とともに「市民参加」が必要である。本当に育てるべきは、市民の生活の中にある文化芸術であると思う。 ・重点プロジェクトの説明として、市民はサポーターと位置づけられているが、市民は文化芸術の主体であるため修正すべきである。 ・市民の参加の仕方としてボランティアのほか、クラウドファンディングなどの方法もある。 ・「市民が文化を創造していく」という姿勢が重要である。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒指摘を踏まえ、プロジェクトのタイトル、解説文、「主な取組」の項目等を修正

議題	テーマ	意見
重点プロジェクト	重点プロジェクト3	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクト1に国際芸術祭を記載できるのであれば、主な取組の例を「国際芸術祭と連動したイベントの開催」とするとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ⇒指摘を踏まえ、解説文及び「主な取組」の具体例を修正 ・盆栽や人形など、地域の歴史的背景を持つ地域資源とアートイベントはなじまないのではないか。地域資源の活用としては、単発イベントよりも、むしろ、学会や国際シンポジウムの開催や、その記録集の作成など時間をかけた取組が必要ではないか。
本市を取り巻く文化芸術の現況を踏まえた課題への対応	課題4	<ul style="list-style-type: none"> ・市の貸出施設の予約が月1回の抽選なので、翌月はいつ取れるかわからないというのが非常に困る。本当に人材育成に取り組むのであれば、決まった曜日の時間帯をある程度まとめた期間で貸し出せるしくみがあると、クリエイティブな活動がしやすい。 ・ウォールペイントなどストリートカルチャーにも対応出来るようにしてほしい。渋谷の音楽貸しスタジオ(CSST)のように人々が集まれる環境を整え、地域のコミュニティづくりの場となる施設づくりを目指して欲しい。
	課題5	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーやユニバーサルデザインなど、社会包摂の理念を計画全体でカバーすべきである。 ⇒指摘を踏まえ、計画本編の施策4、施策7に記載 ・アーツカウンシルの機能として、補助金審査や事業評価、相談窓口といったものは全て不可分であり、支援対象に対する伴走型支援として必要となるので、「活動支援」というかたちで総括して記載すべき。
その他	計画全体	<ul style="list-style-type: none"> ・既に取り組んでいる事業があれば、具体例として挙げておくと、市民にもわかりやすい。
		⇒今後、計画本編の各施策の取組例に記載
		<ul style="list-style-type: none"> ・計画や課題の全体を貫く考え方として、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を盛り込んで欲しい。
		⇒計画本編の施策4、施策7に記載
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術の使命として、社会包摂や多様性を説明する際には、年齢の差や障害の有無等だけでなく、人種・民族の違いや性的マイノリティをも超克する理念であることについて盛り込むべき。
		⇒指摘を踏まえ、計画本編の施策4に「人種」「性的指向」を追記
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査によると「音楽」に対するニーズが高いため、計画内で取り上げる必要がある。 		

2. 審議会及び審議会委員への意見聴取における意見

＜第2回文化芸術に関する意見交換会（令和元年8月26日開催）における意見＞

※色を付けたセル：次期計画へ反映した意見

議題	テーマ	意見
本市を取り巻く文化芸術の現況と課題	アンケート手法	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの設問について、さいたま芸術劇場に行くと、アンケートを必ず書かされるが、いつも同じ設問で、もう少し工夫してもらえれば書く気になると思う。
	計画の成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標について、「さいたま市を文化のまち・芸術のまちとイメージをする市民の割合」の目標値を25%に設定し、色々な施策を実施しているのは何故かと考えると、市民に文化芸術都市であることをアピールするためである。市民にも理解される指標として、イベント等の来場者数を測定することはできないか。 ⇒成果指標について、個別の計画事業に定量的な成果指標を設定（資料2-1、p.4「④成果指標」、資料2-2、p.2「課題1」） 通算でも来場者数を測定すべき。400近い施策を実施していれば、延べ100万人規模の来場者数があるのではないかと思う。その中には市外の人もいて、多くの人が触れあっているはずである。どこにアプローチしていったらよいかという次の施策のアイデアも出てくるかもしれない。市民意識調査の結果だけを見ると、これだけの施策をやっても浸透しないと言っているように聞こえてしまうので、これだけの人が参加してくれているという情報があるだけでも見方が変わってくると思う。
平成30年度施策集等	施策内容	<ul style="list-style-type: none"> ＜施策7 文化芸術活動の場となる施設の充実＞が13事業と、事業数が少なく、施策の拡充が必要であると考え、サードプレイス的な施設がもっと身近にあったらよいと思う。 ※サードプレイス…コミュニティにおいて、自宅や職場とは隔離された、心地のよい第3の居場所を指す。 ⇒委員意見を踏まえ、今後、施策4「文化芸術に対する理解や関心の促進」施策7「文化芸術活動の場となる施設の充実」の次期計画本文を修正・追記（資料2-2、p.1「課題4」右欄）
		<ul style="list-style-type: none"> 市民会館や公民館では、イベントのための会場予約は盛況であるが、実際に展覧会に行くと、どこも盛況とまではいえない気がする。関心の持ち方や、仕掛け方が定型的になっているものと考え。
		<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術都市であるということをもっとPRしていく必要があると思っている。芸術としては、純粋芸術だけでなく大衆芸術も必要だと思う。なおかつ、自分がつくった袋を売る、フリーマーケットなど、参加型の芸術も必要である。そういうようなものも施策対象として取り入れていき、幅広く門戸の広い芸術活動を展開していることを、もっと広く日本中に発表したら良いと考える。
		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度と令和元年度の事業数はあまり変わっていないが、このひとつひとつのイベントや事業が「去年やったから今年もやりましょう」、「続けてやっていきましょう」となっていないか。たとえ良いものであっても内容を変えていく、ブラッシュアップしていく、場合によっては良い時にやめて、次の新しいものをつくりあげるというように取り組んでいく必要があると思う。

議 題	テーマ	意 見
平成30 年度施 策集等	施策内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオは、耳からだけの情報だが、想像を膨らませる媒体だと考える。耳からしか聴けない情報を理解するためには、何かの調査結果によると7回以上同じものを聴かないと覚え込めないとされている。そうになると、やはり繰り返し周知していくしかない。いかに興味を持たせられる内容か、話題をつくりながら展開させていき、SNSやホームページなどデジタル関係の部分も併せて、どう立体的に展開していくかが重要となってくる。 ・いろいろなメディアにおいて、今の10代はテレビを見ない、場合によってはラジオも聴かない、じゃあ何を見ているのか、何に興味があるのか。よく言われるのはYouTubeだが、若者たちにどう目を向けてもらうか、興味を持ってもらうか、ということを探ることが重要である。 ・北沢楽天が漫画家ということを知らない人がほとんどで、周知が足りていないと思う。まずは、北沢楽天を知ってもらうために、北沢楽天の絵がそこかしこにあるまちをつくるというのもアイデアだと思う。

＜第3回文化芸術に関する意見交換会（令和2年1月15日開催）における意見＞

※色を付けたセル：次期計画へ反映した意見

議 題	テーマ	意 見
アンケート調査結果の報告	調査A～Dの結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・調査A「さいたま市民意識調査」の質問「1.さいたま市のイメージ」の回答選択肢を見ると、「コンサートやイベントが多いまち」との選択肢とともに、「文化的なまち・芸術のまち」との選択肢があるが、広く捉えれば、前者は後者に含まれるような気もして、差異がわかりにくい。「文化芸術」という言葉は抽象的なため、市民にアンケートをする際は具体例を挙げるなどして、文化芸術の定義や範囲を明確にする必要がある。 ・都心へのアクセスが良いさいたま市の特徴を踏まえ、住宅都市として提供すべき文化芸術を検討する必要がある。 ・文化芸術に関する後継者不足について、20～30代の人々が来たところですぐにやめてしまっただけで続かないということもあるため、地域に定着しているような定年後の方を取り込むほうが理にかなっている場合もあると思う。 ・文化芸術活動の高齢化について、状況を改善するには、子育て世代を取り込む必要があると思う。子育て世代を取り込むには「育児とセット」が条件になる。乳幼児→託児、小学生→一緒に体験、中高学生→主体的に考えさせる、というようなアプローチが理想的だと思う。また、個人的には子どもに早い段階から芸術的な観点・視点を身に着けさせるべきだと考えており、幼児や小学生を対象にしたイベント作りを積極的にすすめ、文化芸術に触れる機会を増やすべきだと考える。
次期さいたま市文化芸術都市創造計画中間まとめ(案)の方向性	施策展開の方、基本の重点プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・文化とは楽しむことであり、よりよく生きていきたいという気持ちの表れである。例えば、子育て中の親が子どもにキャラクター弁当を作って、インスタグラムで発信することも文化である。岩槻区だと、人形が代表的な文化であり「流しびな」や「人形供養祭」等も定着しつつあるが、それだけが文化なのではなく、市内の他の地域では、他のことを楽しんでいる人が大勢いる。さいたま市は10区あってエリアも広いので、文化芸術活動に関する様々な選択肢が豊富であればよいし、様々な文化芸術活動が継続され歴史を築けるようなさいたま市になってほしいと思う。 ・コンサートなど、多くの文化芸術活動が実施されているにもかかわらず、文化芸術に対する市民の関心が低いのは、一般市民への広報や宣伝が不足しているからではないか。文化芸術都市としてのイメージを市民に定着させるためには、2回、3回と継続することが必要。 ・さいたま市は市外出身者が多く住む都市であるが、市外出身者にとって地域の伝統行事やイベント等を知る機会が少ない。市内の文化芸術について広く情報発信するとともに、リピーターの創出を図る必要がある。 ・文化芸術活動の主体となる市民と行政との連携が重要である。そのためには、市民に対して「文化芸術によりくらしが豊かになる」ことを伝える標語をつくるなど、パブリックリレーションズが必要である。 ・多くの施策を実施するならば、市民の意見を取り入れる機会を設けてほしい。 ・若者の意見を取り入れ、未来のさいたま市を担う子どもたちが参加したいと思える環境を整えることが必要。 ⇒さいたま市「子どもの提案制度」で中学生から意見聴取。次回会議で結果概要を報告 ・文化芸術を活用したまちづくりを目指すのであれば、「デザイン」に関する取組が必要。先進的な取組をしているロンドン、金沢、京都等を手本として、市でも検討してほしい。

議 題	テーマ	意 見
次期さいたま市文化芸術都市創造計画中間まとめ(案)の方向性	<p>施策展開の考え方、基本施策の重点プロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施策8の追加は、組織の縦割りを取り払う意味でも良いこと。一方で、行政の計画は、民間と比べて時間軸が長期で、スピード感を持った対応ができないことがあるので、短期／中期／長期の時間軸で、それぞれ効果検証をしていく必要があるのではないか。 ・施策全体を見たときにデジタルの活用の視点が抜けているので、デジタルやICT技術、AI等のテクノロジーとの連携による取組を検討したほうがよいのではないか。 ・「基本施策の体系」の「具体的な取組」の内容が、あまり具体的でない印象を受けるので、表記を改めた方がよいのではないか。「具体的な取組」の表記を残すのであれば、個々の事業名を記述した方がしっくりくると思う。 <p>⇒委員意見を踏まえ、「具体的な取組」の表記を「施策展開の方向性」に修正(資料2-1、p.2②基本施策の体系について)</p>
	<p>成果指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標を見直して、来場者数等の定量的な指標を採用するのは良いと思うが、文化芸術基本法を踏まえての計画改定とのことなので、数字では表しにくいけれども、是非「社会包摂」の理念を取り入れて次期計画を策定してほしい。 <p>⇒委員意見を踏まえ、今後、施策4「文化芸術に対する理解や関心の促進」施策7「文化芸術活動の場となる施設の充実」の次期計画本文を修正・追記(資料2-2、p.1「課題2」右欄)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の施設やイベントのリピート状況や、新規参加者がどこの地域からきているのかを調査すると、有益な評価・分析が可能になる。 ・文化芸術活動についてデジタル世代の参加が少ない状況を踏まえ、デジタルの観点から子どもたちの行動を把握するなどしてはどうか。 ・「成果指標」の測定方法を、今後は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の回答割合が目標にどれだけ達しているかを測るとの説明だったが、自社で商品アンケートを取る際に求める答えは「行きたいか／行きたくないか」とはっきりしている。なぜなら、ハワイ旅行を検討している人に、グアムを勧めても契約が成立しないからである。行政の施策においても、市民が「利用するか／利用しないか」を見て、個々の事業の効果測定をした方がよいのではないか。
	<p>本市を取り巻く文化芸術の現況を踏まえた課題への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題4】さいたま芸術劇場は音響面などで観客からも出演者からも高い評価を得ている。新たに整備される2施設は、こうした特徴を持たせるとともに、市内での棲み分けをすべき。 <p>→市民会館おおみやは、すでに工事に着手しているので、今後の設計変更は難しいが、市民会館うらわは、これから検討に入るので参考にしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【課題4】施設に関する意見について大きな分類として、大～中規模施設を希望している人、日常で活動する場所を探している人、様々なニーズが存在するが、どのような人にどのような場面で使われるかという活用シーンをイメージし、定義しておくことで、意識がぶれずに共有しやすくなるのではないかと思う。また、そのことを市民に発信できるとなお良いと思う。 ・【課題5】アーツカウンシルは行政から距離を置いた中立的組織であるべきだが、現実の文化芸術と行政との関係を見ると、あいちトリエンナーレ問題のように政治や権力が芸術家の表現に介入する実態があるので、市がアーツカウンシルを設置するならば、このような事態を惹起しないよう覚悟をもって臨んでほしい。

議 題	テーマ	意 見
その他	さいたま国際芸術祭	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式や賀詞交換会など多くの市民が集まる場で、さいたま国際芸術祭の周知がなされず、市の熱意が感じられない。庁内の連携を強化を図って、積極的にPRを行うべきである。 ・インターネット上での情報発信が手薄である。公式SNSのフォロワーをみると、アーティストなど一部のみにしか知られていない。一般市民に向けた情報発信や、参加促進につながる取組が必要である。
	意見交換会の会議形式	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側が用意した膨大な資料に基づき、会議時間の半分以上が資料の説明等に割かれており、意見交換に費やされる時間は非常に少なくなっている。応答形式ではなく、委員同士による会話形式にできないか。
	今後市に取り組んでほしい取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生向け文化芸術体験、中学生向けワークショップ、幼児とその保護者向けの文化芸術体験や、子育て中の20～40代の保護者向けワークショップ等、若い世代の意見を把握できるような取組を実施してほしい。特に20～40代（幼児～小学生までの保護者）を対象としたワークショップは効果的と思う。親は文化芸術に触れたことを子どもたちに伝え、そして、自分の子どもたちのこと、将来のことを本気（自分事として）で考えると思う。
	イベント等の実施における財源確保	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなイベントには多額の費用がかかるが、市の予算には、限りがあるので、多くのスポンサーの支援・援助が必要。例えば、ふるさと納税による寄付のほか、クラウドファンディング等のネットを活用した団体・個人による寄付、またグッズ販売等により、事業経費の財源を確保する努力が求められるのではないか。 <p>⇒委員意見を踏まえ、「計画の推進に当たって」「2.さいたま市文化芸術都市創造基金の拡充」に、財源確保に向けて「企業との連携促進や「ふるさと応援」寄附の拡充等」への取組について追記</p>

3. 令和元年度後期子どもの提案

①提案制度の概要

制度の目的	未来を担う子ども（18歳未満の者をいう。以下同じ。）たちから、市のまちづくりに関する提案を聴く機会（ツール）を新たに増やすことにより、子どもたちからの提案を市政に反映する。 ※令和元年度は中学生を対象に実施。
提案のテーマ	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには？
対象地域	さいたま市全域
対象校	市立中学校 58 校、市立中等教育学校 1 校、私立中学校 6 校（浦和実業学園中学校、浦和ルーテル学院中学校、大宮開成中学校、開智中学校、栄東中学校及び淑徳与野中学校）
対象者	約 34,000 人 ※市内上記対象中学校に在学している中学 1～3 年生
提出方法	原則として各学校に配架された専用封筒による郵送回収
募集期間	令和元年 11 月 15 日（金）～令和元年 12 月 16 日（月）

②回収結果の概要

受付件数：276 件（令和 2 年 1 月 20 日時点、対象校中 5 校提出。個人提出 270 件、グループ提出 6 件）

※令和 2 年 3 月の公表に向けて確認を行う中で、件数が修正される可能性あり。

③主な提案と意見の例

提案 1

芸術的なモニュメントがまちのあちこちにあったり、まちにあるものに芸術の要素をプラスするなどして、身近に文化や芸術を感じられるようなまちになれば良いと思う。

【意見の例】

<提案 NO. 47>

「さいたま市の駅に大きいオブジェをつくる。駅のかべに絵を描く。その絵は地元の学校の生徒が描いたものにする。地面をきれいなタイルにする」

<提案 NO. 80>

「さいたまの主要駅に芸術家の力を借りてモニュメントのようなものを設置すれば、待ち合わせの目印などにもなり、さいたまの『～駅』といえはコレ！ができる。さいたま出身の芸術家たちの作品を展示した『さいたま美術館』のようなものを街につくる。さいたまは漫画が有名なので、漫画が特に好きな小・中学生をターゲットにさまざまな作品の世界をテーマごとに集約させた『さいたま漫画ランド』のようなものをつくる」

提案2

学校の授業で取り上げるなど、特に若い世代において興味関心が高まるように、文化芸術体験を充実させる取組が必要だと思う。

【意見の例】

<提案NO.2>

「授業の美術の時間を増やし、自分で『もの』を作る楽しさを感じてもらい、また学習の一部として美術館などの作品を見に行き、他人が作った『もの』を見る楽しさに気付いてもらう。また長期休かの宿題として、美術館系の所について感じたことをレポートとして書くというものを出し、若い世代の人達に『芸術』と多くふれあってもらえるようにする」

<提案NO.50>

「さいたま市の小学校・中学校・高校で、年に2回くらいさいたま市の文化資源である盆栽、漫画、鉄道、人形などの体験をする授業を設けた方が良いと思います」

提案3

多くの人が文化芸術に親しむことができるよう施設を整備したり、展覧会やイベント、コンクールを開催してはいかがか。

【意見の例】

<提案NO.65>

「さいたま市には、彩の国さいたま芸術劇場という有名な建築家さんがたてた良いところがあると思うので、そういうところで上野の国立博物館のように空海展とか三国史展とか昆虫展とかをまねいてやってもらえば、すごい人気ができると思うし、その劇場も今以上にもりあがると思うし、さいたま市の子供たちの芸術心を育むいい企画となっていくと思います。あとはアクセスで、お手頃に駅から直接いけるバスをつくったりすれば、人々が抵抗なくすすんで休日にみにいってみようかなとか思うようになってくると思います。これができれば、さいたま市は第2の上野となるでしょう」

<提案NO.194>

「さいたま市には、大宮氷川神社や調神社等、旧武蔵國の長い歴史・文化を象徴する神社仏閣がたくさんあるので、もっとアピールすればよい。又、社宝等をもっと公開すれば尚良い。子連れのお親は、博物館を無料にすることや鑑賞教室を開く。文芸に親しませるということで、純文学の作品に限定した読書感想文コンクールを中高部門・社会人部門に分けて開催したり、小説の新人賞の公募もしたらいい。又、隣の市の川越には、小江戸ブランドがあるので、相互の文化財を関連付けて一緒に展示すれば、お互いのブランドが一層強化される」

提案4

映画、アニメーション及び漫画などとのコラボレーションを行ってはいかがか。

【意見の例】

<提案 NO. 178>

「さいたま市の特に中心部や栄えているところに目立つ絵とかおいて、写真をとりに来させて有名にさせる。映え。さいたま市で映画とったりして、観光客をたくさんよびこんで有名にさせる。まだ熱が冷めない翔んで埼玉をもっともっとアピールして、翔んで埼玉グッズをつくる。映画出演者のサイン入りのなものもつくったりしてみる。ターゲットを若い年代の人にしたら、文化芸術都市として発展していくと思います」

<提案 NO. 220>

「埼玉県には、春日部や加須などアニメの舞台の地になった所は多いと思われるから、さいたま市も埼玉県の中心として、埼玉県出身の漫画家にさいたま市を舞台としたものを描いてもらって、それをアニメにするといいと思います。そうすれば、多くの人がさいたま市に集まり、1つの文化都市になるとぼくは考えます。今、世界でもアニメなどのものは熱いので、それに乗るのもまた1つの方法だと考えます。アニメの地の設定にはお金がかかるだろうけど、まあがんばってください」

提案5

芸術家を市に呼び込んだり、市出身アーティストを支援するなどして文化芸術の担い手にやさしいまちにしたら良いと思う。

【意見の例】

<提案 NO. 123>

「私は東京都の立川市に住んだことがあります。そのときに駅の近くには作品が飾ってありました。さいたま市も同じように駅近くの空いているところに芸術作品を置いてみたらどうでしょうか。置いてあると華やかさが増え、市全体も明るく見えると思います。また私は都民なので実際には不明ですが、さいたま市が文化芸術都市ということを知っている人は少ない気がします。そこで、駅に「さいたま市にはこんな文化芸術がありますよ」といったものを置いたりするとよくなると思います。合わせて、先程提案した作品を飾ることが可能ならば、それも書くとわかりやすくなると思います。そして、根本的に芸術家がいるかということです。私は市民全員を知っているわけではないのでよく分からないのですが、芸術家が少ないならば、芸術家が活動しやすい場所を提供されてみてはいかがでしょうか」

<提案 NO. 217>

「さいたま市にいる芸術家の卵を大切に育てる。インターネットを通して、さいたま市の文化や芸術などを広める。例えば、今若者の間で使われているツイッターやインスタグラムで芸術作品などの写真をとって、あげるなどする」

提案6

さいたま市の文化を宣伝するとともに、さいたま市が文化芸術都市であるという情報発信をすると良いと思う。

【意見の例】

<提案NO. 3>

「絵画や盆栽などのものは、高齢者がたしなむものというイメージが大きいので、それをなくすべく SNS などの若者のもので拡散し、よさを知ってもらい、実際に行っても見るだけでなく体験型のアトラクションのようなものをつくる」

<提案NO. 28>

「さいたま市のみ力をポスターにしよう！」

提案7

文化芸術都市として、外国人をはじめとした観光客を意識した取組があると良いのではないか。

【意見の例】

<提案NO. 86>

「僕はずっとさいたま市に住んでいるが、浦和や大宮などは文化芸術都市といえると思うので、岩槻や見沼などについても、もっとさかんに PR をして、観光客を呼びこめるような方法を考えていくべきだと思う。僕は浦和に住んでいて、大宮や新都心にはよく行くが、岩槻の方のことはあまり知らないし、行く機会もほとんどないから魅力的なものをつくって発信していくことが重要だと思った」

<提案NO. 127>

「さいたま市で有名な盆栽を発展させれば良いと思う。「古くさくてださい」そんなイメージを持たれている気がするので、何か現代の若者や外国人が好みそうなものとコラボすれば、世界的に有名になれるのではないかな？と思いました。それも盆栽に限らず、同じように若者、外国人ウケするものにアレンジしたら人気が出て、売り上げが上がり（大宮＝文化芸術都市）みたいなイメージになって、さいたま市の認知度が上がるのではないかと思います」

提案8

既にさいたま市にある文化資源を守り育てていくことが大切だと思う。

【意見の例】

<提案NO. 11>

「昔からある産業・芸術を守り抜くことが大切だと思う。私には理由が2つあります。1つ目はスーパーやショッピングモールに伝統工芸品を売ったりすることで、職人の人がもうかって長く続いていけるから。2つ目は美術展などを多く開きすることで、多くの市民に美術（芸術）に対して関心が向くと思うから。以上から、昔からある産業・芸術を守り抜くことが大切だと思う」

<提案 NO. 180>

「今現在、地域の人や年配の人との関わり、交流の機会が少なくなっていると思います。私も昔は地域の餅つきや交流会に積極的に参加していましたが、今ではあまり参加できていません。年配の人の文化が若い人へと伝わっていくことも大切だし、若い人の文化が年配の人に伝わっていくことも大変重要だと思います。絵画や盆栽など、手につけるのが難しそうな物からではなく、参加するのが簡単そうな地域の行事などを推し進めていくことで、年配の人も若い人もより楽しく毎日の生活がよりよくなっていくと思います。私も積極的に地域の行事に参加していきたいと思います」

提案 9

テーマの意義が感じられない。

【意見の例】

<提案 NO. 22>

「さいたま市は文化芸術都市として発展させるのではなく、これからはベッドタウンとして発展するのではないかと自分は思う。文化芸術都市は、他の県にも沢山ある。なので、自分はこれからさいたま市が文化芸術都市として発展するのは、もう時代遅れであると思う。だが、ベッドタウンとしてならば、まだ発展することが可能であると思う。地域の安全や治安を守るために防災ボランティアを増やし、”日本一安全なベッドタウン”とすれば、居住者が増えると思う」

<提案 NO. 106 (後段) >

「さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、盆栽などさいたま市がほこる文化芸術などを SNS・ラジオ・TV・広告など、人の目につく所でアピールをすることが大事だと思います。もしくは、さいたま市を文化芸術都市として発展させることを諦めることも一つの選択肢だと思います。別に「文化芸術」以外にも、さいたま市が持っている魅力はたくさんあります。それを活して、さいたま市を盛り上げれば良いと思います。もし、その結果さいたま市のあだ名がダサかったとしても、さいたま市の他の市にはない雑草魂を見せつけばいいだけじゃないですか。無理に中高生にまでアイデアを募集するくらいなら「ありのままのさいたま市」でいいのではないかと僕は思いました。さいたま市にたくさん魅力があります。色々なカテゴリー、市内ないたる所にまで目を向けて下さい」

<参考> 全ての意見

No.	提案内容
1	デパートやスーパーなどに、そういった名産品や芸術品を置くコーナー、また同じ商品の中に置いてみたりする といいと思う。そういう芸術品などのイベントを開いても、何か少し難しい感じがして、特に若い人たちになじ まないと思ったから。
2	授業の美術の時間を増やし、自分で「もの」を作る楽しさを感じてもらい、また学習の一部として美術館などの 作品を見に行き、他人が作った「もの」を見る楽しさに気付いてもらう。また長期休かの宿題として、美術館系 の所について感じたことをレポートとして書くというものを出し、若い世代の人達に「芸術」と多くふれあつて もらえるようにする。
3	絵画や盆栽などのものは、高齢者がたしなむものというイメージが大きいので、それをなくすべくSNSなどの若者 のもので拡散し、よさを知ってもらい、実際に行っても見るだけではなく体験型のアトラクションのようなもの をつくる。
4	文化や芸術を体験できる施設などを設備して、それをホームページやCMなどで宣伝することで、さいたま市の文 化や芸術という印象を強くすることで、文化芸術都市として発展すると思う。
5	盆さいを世界に発信する。美術館などでいろんな展示会を開く。美術の授業として美術館に行つて観しように行 く。
6	芸術の良さを知れるポスターを作っているいろいろな所にはったり、地方からそのような技術を持っている人を呼ん で、年に何回かそういう事に触れられるような行事をつくれればよいと思う。また、芸術作品をいろいろな場所に 展示したり、いろいろな種類の芸術を見ることによって楽しそうなものを見つけれられると良いと思う。
7	さいたま市に映画館などの施設をたくさん作つて、文化芸術都市として発展させる。工芸品を作成できて持ち帰 り出来るところを作る。映画の撮影が出来るところを作る。絵画展などを頻繁に開く。書店をたくさん作つて、 近くを通る人が手軽に寄れるようにして文化を発展させる。
8	市内で毎年トリックアートを体験したりできるイベントや子供たちが描いた絵をその場でスクリーンに写しだす ことができる施設を作る。さいたまスーパーアリーナで、子供たちが好きなゲームと演劇がコラボしたものを 見るイベントを作る。
9	子供たちが文化芸術に興味を持つようには、それぞれの趣味に合ったイベントを行うのが良いと思う。例 えば、私の所属するコーラス部では、敬老の日の式典に参加し「ふるさとの四季」などの歌を歌った。これをも つと大きな規模で考えて、さいたま市内の中学校や高等学校で合同でコンサートを行つたらたくさんの方が来て くれて、さらにコーラスに興味を持ってもらえると思う。また、これはコーラスだけではなく他の芸術にも生かせ ると思う。これで子供たちに文化芸術に興味をもってもらえれば、さいたま市全体で発展することができると 思う。
10	さいたま市をぶたいとした映画やまんがを作ればよいと思う。子供たちでも参加できる絵画コンクールなどを積 極的にかいさいする。また、それに参加してもらつたために人の多いところ（駅など）にポスターをはったり、学 校でそのチラシをくばつたりすればよいと思う。
11	昔からある産業・芸術を守り抜くことが大切だと思う。私には理由が2つあります。1つ目はスーパーやショッ ピングモールに伝統工芸品を売つたりすることで、職人の人がもうかつて長く続いていけるから。2つ目は美術 展などを多く開きさいすることで、多くの市民に美術（芸術）に対して関心が向くと思うから。以上から、昔から ある産業・芸術を守り抜くことが大切だと思う。
12	さいたま市の人々に文化や芸術について知らせる紙をくばればよいと思う。また、さいたま市が他の埼玉の市と 協力して、さいたま市全体の文化・芸術を交流すればよいと思う。それと、埼玉県全体で昔の日本の一部の人のよ うに文化や芸術を発展させるための資金を宝くじによって得たお金やオリンピックによって得たお金を使えばよ いと思う。また、それらにより得た資金によって美術・博物・化学の総合テーマパークを作り、また、それで得 たお金でオリンピックや文化発展につかう流れをつくと良いと思う。
13	1. 伝統文化・工芸品などについて、ふれ合う機会を小学校などで増やす。
14	埼玉の美しい場所をたくさん紹介することで、芸術家に埼玉へ来てもらい絵を描いてもらう。埼玉出身のマンガ 家に埼玉の名所がでてくるマンガをかいてもらう。
15	「翔んで埼玉」のマンガのページをいろんなところにはる。
16	最近の子供たちは、この「文化芸術」というものが、なんなのかすらわからない人が少なからずいると思いま す。なので、文化芸術というのがなんなのかわからない人のために、実際に鑑賞したり体験したり、その発表をき いたりすることがとても大切だと思います。また、さいたま市の文化資源の「盆栽」、「漫画」、「鉄道」、「人 形」などのものを全国的に紹介していけば良いと思います。
17	さいたま市は、埼玉県別の県庁所在地でありながらも印象がとても薄いと思います。例えば、宮城県なら仙台市。 仙台市は牛タンやかきなどを連想することができますが、さいたま市は大きく交通の便はよいという印象しかな い人が多いと思います。先ほど例で出した仙台市は、かきの生産が1位ではないですが、印象深いですよね。だ から、さいたま市もまずは交通の便を利用して印象をつけることが必要だと思います。さいたま市の駅といつた ら浦和や大宮ですが、少し汚いと思います。都市のような雰囲気を少し感じつつもゴミが散乱して、いい印 象はもちませんでした。なので、まずゴミ箱を各地に設置し、そのゴミ箱のデザインにさいたま市の芸術文化と して知ってほしいものを利用してみるのどうでしょうか。そうすれば、気にならなくても自然に目がいつて印 象づけることができるし、全体的に外観もきれいになると思います。
18	さいたま市には人形などの伝統工芸品などがあるので、それらを展示する博物館や美術館を増やせばいいと思 う。また、多くの人が利用する駅にも、その土地ならではのものを展示すれば、より多くの人が知ってくれると思 う。さいたま市には、小説や詩をかいたり、音楽・映画をつくつたり、ダンス・演劇を職業にしたりしている人もた くさんいる。さいたま市出身の人たちがかいた小説や詩を借りられる図書館をつくれれば、テーマ「2」も達成 できるのではないか。また、その小説の物語をさいたま市出身のダンスや演劇をしている人たちが劇のようなもの をすればいいのではないか。
19	各地域ごとに美術の展覧会や映画を無数で見れるようなものを開き、美術を身近なものにするので、小 さいころからそういうものにふれて、それに興味を持ったことにより、それを子どもに美術の楽しさを伝えるよ うなサイクルにすれば、さいたま市は文化芸術都市にずっとあり続けることができると考えました。

No.	提案内容
20	文化芸術都市は、街もきれいでなければいけないと思います。私は、さいたま市に住んでいるのですが、登校中にカラスが生ごみをあさっている様子がよく見られます。そのため家庭ゴミはネットで覆うだけではなく、カラスが開けられないようなカギのついた小さな小屋に入れるようにするべきだと思います。また、公園や広場に遊具として使えるようなオブジェを設置すれば良いと思います。
21	さいたま市で有名な文化芸術で代表的なことは、岩槻のひな人形や盆栽、日本に2つしかない鉄道博物館などがあると思うので、小学生や中学生などに、例えばひな人形を作るこうていを見学したりすれば、さいたま市にはどんな文化があるかを知れると思います。イベントなどを開き、盆栽作り体験のような事をすれば、もっと多くの市民が知れると思います。文化芸術都市は、さいたま市といえば「…」と、市民がすぐに自信をもって言えるぐらいになれば、文化芸術都市と言えると思います。
22	さいたま市は文化芸術都市として発展させるのではなく、これからはベッドタウンとして発展するのではないかと自分は思う。文化芸術都市は、他の県にも沢山ある。なので、自分はこれからさいたま市が文化芸術都市として発展するのは、もう時代遅れであると思う。だが、ベッドタウンとしてならば、まだ発展することが可能であると思う。地域の安全や治安を守るために防災ボランティアを増やし、「日本一安全なベッドタウン」とすれば、居住者が増えると思う。
23	1. さいたま市の文化・芸術をさいたま市にある学校をまわるなどして紹介する。
24	小中高のコンクールなどを増やした方が良いと思います。それをいろいろなところに展示し、見たり読んでもらえば良いと思います。
25	年に何回か芸術展のようなものをさいたま市各地で開催したり、また、そのちらしも県などに配ったりして有名にする。また、さいたま市各地にアーティストが作った芸術作品を展示するなどする。そこでスタンプラリーなども開催するといいのではないか。
26	1. さいたま市内に何か日本の文化などがわかるし設をたてて、いろいろな人に日本の文化を知ってもらう。
27	文化といえばスポーツ。新国立にも負けない規模の埼玉スタジアムを持っていることを活かしていけば良いと思う。しかし、唯一にして最大の弱点の「駐車場がない」ため、埼玉県民は不便である。しかも、電車で行くにも大宮から京浜→武蔵野→高速線とかなりの遠まわり。交通の便をよくすることが大切なのではないか。①岩槻駅・蓮田の方まで高速線を！②埼玉スタジアムの離れたところに大きな駐車場を作り、自動運転のシャトルバスを走らせる。
28	さいたま市のみ力をポスターにしよう！
29	さいたま市の文化を皆に伝えたら良いと思う。
30	活動に関するポスターなどを駅や店にはりだすと良いと思います。
31	さいたま市がみずから手で築き上げてきた、有形無形の成果の総体と美を追求していけばいいのではないのでしょうか。
32	美術品などをてんじして、もっとみんなに知ってもらう。
33	美大を建てる。
34	さいたま市の意外知られない文化などを教える。授業を週1回くらいのペースです。その授業でグループをつくり、調べ学習をして定期的に発表する。そうすれば、発表をうまくやる能力がつくから将来にも役立つと思うから、つくったらいいじゃないかと思った。
35	さいたま市は、もっと美術館や文化会館などを作り、他の地域の方がたに、さいたま市の文化などをPRすればいいと思う。
36	もっと東京や京都とかみたいに文化や芸術を体験できる博物館や美術館を作ったり、もっと身近に文化などを体験できるイベントをすると、もっと良くなると思う。また、さいたま市の歴史だけでなく、ほかの市・県などの文化・芸術の物を博物館や美術館で展示すると、もっと良いと思う。これら以外にも、もっと他地域からも人がこれるように、電車などの交通網を発達させたり、電車やバスなどの本数を増やすと、首都圏からもたくさんの人がきて文化芸術都市としてのさいたま市を感じる事ができ、もっとさいたま市が発展していけると思う。
37	さいたま市は、鉄道により東京・横浜といった大都会や北海道や金沢といった観光地とつながっており、中心的な存在になっている。だから、それを理由してさまざまな文化（地方の料理・アニメや漫画、衣服等）が一同に会する「異文化共存都市」になっていけば良いと思う。その具体的な案として、アンテナショップの増設や周辺地域の小中学生の異文化体験等を挙げる。このようにしていけば、「さいたま市に来れば、色々な体験をすることが出来る」というイメージになり、観光客の増加も見込まれ文化芸術都市としての発展だけでなく、経済的な成長も出来ると思う。
38	さいたま市に美術館など芸術的な建造物を増やす。そうすることで、さいたま市に芸術などのイメージがつくといいと思います。読書が何で大切なのかをはっきりしていく。
39	駅に埼玉県とわかる芸術のポスターをはる。
40	子どもに芸術について興味を持ってもらえるように、小・中学校で盆栽や絵画、人形といった芸術や文化に関するものにふれる機会を設けたらどうでしょうか。
41	文化や芸術を感じられるイベントを開きする。身近に文化や芸術を感じられるように、図書館や公民館などに文化資源をおき、興味を高めさせる。
42	JRの駅メロをその駅に関連した音楽を使う。詩を読む大会や小学校から高校の授業で鑑賞の時間を作る。
43	現在の若い世代の人々は、絵画や芸術などに興味を持つことが少ない。僕もあまりそういう趣向には興味は持たない。なので、マンガやアニメなどの趣向や映画などの文化を推進すればよいのではないだろうか。
44	さいたま市または埼玉県出身の芸術家の絵の展覧会を開いたり、さいたま市出身のアーティストを呼んでコンサートを開いたりして、それを「さいたま文化芸術祭」などと名前をつけて実施すれば良いと思います。
45	さいたま市では、いろんな施設があるためその施設などを利用して芸術展などを積極的に開催したり、さいたま市の文化を伝えるために芸術展に文化を伝えるものを設ける。
46	1. 子供たちも出展できる展覧会を開く。
47	さいたま市の駅に大きいオブジェをつくる。駅のかべに絵を描く。その絵は地元の学校の生徒が描いたものにする。地面をきれいなタイルにする。

No.	提案内容
48	まず、さいたま市からポスターをはり、それを見て人気が出てきたら他の所からも人気が高まる。学校や老人ホームなど人が多いところでポスターをはれば、広まって人気が出ると思う。
49	オリンピックのエンブレムのように、さいたま市のデザインを決め、そのデザインにそのようなところをつくる。
50	さいたま市の小学校・中学校・高校で、年に2回くらいさいたま市の文化資源である盆栽、漫画、鉄道、人形などの体験をする授業を設けた方が良いと思います。
51	後継者がいないと文化や芸術を後の世代に受け継がせる事もできず、文化が発展することもなくなってしまいます。そこで考えた事は、「さいたま市の文化や芸術を教えてくれる博物館をめぐるスタンプラリー」を小中学生向けにやれば良いのではないかと。学校でスタンプラリーを配布して、スタンプが全てたまったら、さいたま市の文化芸術に関連する景品をプレゼントすればよいとおもう。
52	さいたま市での有名な本を、ほかの市に知ってもらうようにポスターをはったり、読み聞かせなどをして、さいたま市での本を色んな人に伝えてみたらどうか。本以外でも、さいたま市の文化や芸術などのてん覧会をほかの市で行い、さいたま市以外の人に、さいたまの歴史を知ってもらえば良いと思う。
53	小中学生の夏休みの絵画コンクールの作品を掲示するときに、大人の方々が描いた作品も一緒に掲示すれば、絵画への関心を高められると思う。
54	さいたま市には学校が沢山あるので、それぞれの学校が部活動の成果の発表をする場をもっとふやしていくと良いと思う。そうすれば地域交流の場にもなり、都市の発展やつながりにより影響を与えるのではないだろうか。
55	盆栽の色の濃たん等で、漫画の一場面を作る等の外国人観光客ウケが良いものを作ったらいいと思う。
56	駅や街中に体験で感じるアートや思わず写真を取りたくなるようなアートオブジェを置くといいと思う。
57	さいたま市の文化・芸術を伝える博物館などで、スタンプラリーをやってみたらいいと思う。
58	そもそも芸術というものの線引きは、とてもあいまいであると言えます。もっとも芸術というものの性質上、何を美しいかと考えるかで芸術かそうでないかが決まる訳で、当たり前ながらそれは個人の価値観に依存するのです。たとえば、今では世界中で日本の伝統芸術として有名な浮世絵も、当時は衆民向けの安価なポスターに過ぎなかったのです。このように芸術というものは、時代によって激しく変化していくものです。つまり、真の「芸術の都市」とは、時代の流れに合わせ常に変化していくべきだと私は考えます。
59	さいたま市の魅力をポスターに書くなど、さいたま市の良いところを観光客に伝えるという方法がいいと思います。
60	学校の美術や音楽などの授業に力を入れれば良いと思う。週1では、いくらなんでも少なすぎると思うので、週2回や2コマ続きを週に一回などにした方が良いと思う。また、部活動の活動環境をもっと充実させた方が良いと思う。いくつかの部活は、市内に4校しかないものがあつたりする。それでは、その部活の人も、ないが為に入りたいのに入れなかった人も嫌な思いをしてしまうと思う。P.S.私は川口市民です。
61	さいたま市の美術館めぐりのスタンプラリーをきかかする。さいたま市の有名な建築物などのカードをつくり、各場所におく。与野本町の駅を「芸術ホール前」的な副称をつけて宣伝する。同じように土呂駅も「盆栽のなんとか」っていう副称をつける。さいたま市の有名な小説の舞台となったところをスタンプラリーにする。
62	さいたま市が文化芸術都市として発展していくうえで、すでに日本だけでなく海外でも有名となっているアニメ文化に関するものをつくるというのはどうでしょうか。具体的には、アニメとのコラボやアニメのイベントかいさいなどをするといいと思います。これによって、日本国内のアニメが好きな人はもちろん、海外のアニメ好きもさいたま市に集まってくるでしょう。こうすることでさいたま市は、アニメ文化・アニメの芸術において有名な文化芸術都市として発展していけると思います。
63	文化や芸術に関すること（本・絵画など）の広告をさいたま市民が利用する駅などに設置すれば、人々の目にもとまって関心が高くなると思います。また、何か1つ「さいたま市といったらこれ」というようなものを決めれば良いと思います。例えば、学校での音楽の授業で他の都市よりも楽器に力を入れたり、さいたま市の歴史に関する教科書を作って学校で使ったりなどです。そうすれば、さいたま市民が他の都市よりも何かの分野に優れているということを言えると共に文化芸術都市としても発展すると思います。
64	さいたま市は公園などをもっと作り、そこに一つか二つ彫刻や絵画を設置すれば良いと思う。大宮駅や浦和駅などにも設置したほうが良いかもしれない。大規模なホールや会館があるので、そこで自由に展示すればいいのではないかと。
65	さいたま市には、彩の国さいたま芸術劇場という有名な建築家さんがたてた良いところがあると思うので、そういうところで上野の国立博物館のように空海展とか三国史展とか昆虫展とかをまねいてやってもらえば、すごい人気でできると思うし、その劇場も今以上にもりあがると思うし、さいたま市の子供たちの芸術心を育むいい企画となっていくと思います。あとはアクセスで、お手頃に駅から直接いけるバスをつくったりすれば、人々が抵抗なくすすんで休日にみにいってみようかなとか思うようになってくると思います。これができれば、さいたま市は第2の上野となるでしょう。
66	人々が礼儀正しい行いをできるようにすることが、文化芸術都市として発展するための第1歩だと思う。そのためには電車の中でお年寄りや体が不自由な人には席をゆずること、できるだけ集団で帰らず大きな声で騒いで周りの人に迷惑をかけるようなことをしないことなどのマナーを各学校で指導する。また、ゴミが落ちていたら拾ったりすることも町がきれいになり人々が気持ち良く過ごせて、それを見た人も「自分もやらないとな」などと思いを動かされると思う。また、各学校で月に一回、さいたまの伝統工芸品の製作体験や見学体験をすることも芸術の心を育むことにつながると思う。
67	学校の美術・音楽の授業数を増やす。芸術を鑑賞できる機会を学校でも増やす。国語で日本の文学以外にもドフトエフスキーやディケンズなど海外の文学についても紹介し、読むことを奨励する。イデオロギーを理解するような教育をする。
68	大宮・浦和などの駅にミニ美術館を作る。埼玉市役所などの周りに小学生が描いた優秀な絵を飾る。彩の国埼玉県というのであれば、駅などをカラフルにして特徴づけた方が良く思います。どこかに埼玉県出身の画家に来てもらい、大きい絵を描いてもらう。
69	各個人が文化や芸術に対して興味や趣味をもっていないと市全体が発展することはできないと思うので、例えば無料でオペラコンサートを開いたり、色んな学校で芸術鑑賞会を開いたりするべきだと思います。また僕の学校は体育・芸術の授業が少なく、行事も少ないので増やしてほしいです。また、他の国の文化を尊重し、交流を深めるのも良いと思います。

No.	提案内容
70	私はこのことについて2つ提案します。1つ目は「1駅・1芸術」として、さいたま市内の各駅に芸術に関するもの（絵画・ちょう刻など）を展示し、それらを巡るスタンプラリー、あるいはイベントを行うことです。やはり駅は生活と密接に関係しているため芸術を「身近」に感じてもらうことが重要だと思いました。2つ目は市内の小中学校に対して、オーケストラのコンサートや演劇を学校行事として行くことを推奨することです。なぜならば、小学校の時にそのようなものを見て感銘を受けたからです。
71	さいたまスーパーアリーナでスケートのショーや大会を行う回数を増やしたり、さいたま市民割引などを作ってチケットを安く買えるようにしたら、もっと多くの人が興味を持つと思います。ヨーロッパでは、道端や公園、駅の近くで楽器（バイオリン・マリンバ・トランペットなどをひいている人を実際に見ました）を演奏する人が沢山いるので、大宮駅の近くなどで実際に演奏可にしたらどうでしょうか。浦和の近くにモネの作品がある美術館があると友人から聞いたことがあります。それまでは知らなかったもので、もっと宣伝した方が良いと思います。あと、劇団四季のさいたま市公演を行うのも良いかもしれません。
72	さいたま美術館をつくり、芸術作品の展示や楽器の試奏会場などをつくって、さいたま市民が芸術にふれる機会を多くつくる。世界的に知られている芸術家や楽器演奏者の演説会を開き、市民が芸術にもっと親しみやすくなるようにする。学校の行事として芸術体験などを取り入れ、多くの子どもたちを芸術にふれさせるようにする。
73	主に小学校で文化・芸術を体験させ、その事について調べさせたり考えさせたりする事。イベントを多く行う。
74	小学校や中学校でその文化や芸術を取り上げた授業を行う。例) 体験などをして文化・芸術にふれる機会を設ける。埼玉県出身の芸能人で、文化・芸術のPR動画をつくる。
75	さいたま市の文化資源っていうので鉄道って書いてあって、学校の近くにも鉄道通ってたりするし、鉄道好きな人は結構いると思うから、マンモス展とかミラ展みたいな感じで、鉄道の店とか展示会を設けたらいいと思う。盆栽も他にはなかなかないと思うから、興味をもつ人とか、すごく詳しい人はあまりいないと思う。だから盆栽を表に出して、少しでも多くの人に良さを知らせてもらえるようにアピールというか、そんな感じのことをしたらいいと思う。
76	小説やコミックに出てくる場所（聖地）に実際に行き、写真をSNSにとうこうしてもらい、世間に広めてもらう。SNSにとうこうしてくれた場合には、特典（その小説とさいたま市とのコラボ商品など）をお礼にあげる。ダンスや演劇などは実際に体験してもらい、体を動かすことによってダンスや演劇が楽しい物だと思ってもらう。小さい子供の頃から文化・芸術に触れる機会をつくって、文化・芸術を身近に感じてもらう。
77	文化や芸術と聞くと、少し遠慮しがちな気がする。今の若者は、文化や芸術だと静かなイメージで興味がない人が多い。名前は「文化芸術都市」でもいいが、呼び込みタイトルは若者でも少し興味をひく方がいい。また、少しインパクトのあるキャッチコピーにすることで、現代ではSNSの普及で情報が回りやすく発展のための効果はあると思う。（私の小学校の本のキャラクターの場合、ブックンズカリーヌといった戦隊ヒーロー系？もいいし…）
78	鉄道の車両を埼玉の有名な物であったり、文化を象徴するような物の広告を車内にはったりラッピングしたり塗装を変えたりして鉄道会社等と協力すれば良いと思う。車両だけではなく、駅の広告等も活用すれば良いと思う。
79	電車内に文化芸術都市の特長と場所を提示した広告を掲示する。交通や人通りが多い所で、文化や芸術を体験してもらおう。
80	さいたまの主要駅に芸術家の力を借りてモニュメントのようなものを設置すれば、待ち合わせの目印などにもなり、さいたまの「～駅」といえばコレ！ができる。さいたま出身の芸術家たちの作品を展示した「さいたま美術館」のようなものを街につくる。さいたまは漫画が有名なので、漫画が特に好きな小・中学生をターゲットにさまざまな作品の世界をテーマごとに集約させた「さいたま漫画ランド」のようなものをつくる。
81	文化・芸術に関するお祭りをやったらいいと思います。今まで大宮には「アートフル夢まつり」という芸術のお祭りがあったと思いますが、正直目を引くようなイベントがありませんでした。そこで皆が目目し、実際に大宮に行きたいと思うような有名な大物アーティストを大宮に呼び込むと良いなと思います。人が集まれば、文化・芸術がさらに発展すると思います。その他にも色々なものとコラボして、人が集まる企画を用意したらいいと思います。
82	学校の授業の一環として美術館へ行くなどして、個人個人の芸術に対する意識度を上げる。「文化芸術都市」に住んでいる人たちは、やっぱりみんな芸術に自分なりに関心を持っていないといけないなと思う。
83	市が年に1回くらい歌の大会を主催する。（審査員を呼ぶ。小学・中学・高校・大人部門をつくる。）さいたま芸術祭をひらく（市民が出場する歌・ダンスのコンテスト。審査員を呼ぶ、市民の描いた絵画の展示、市民の作った彫刻や市内の写真を展示する。）出店をだし、さいたまの特産品売り場や料理をふるまったりする。盆栽を展示したりする。入場は無料にし、外部の人でも入りやすくする。SNSとかで情報を拡散し、より多くの人が参加できるようにする。祭りのボランティアをつくる。
84	埼玉県では盆栽が有名である。だからその盆栽をさいたま市の文化・芸術として全国に広めて行けば、年として発展するのではないかと考えた。その他にも提案がある。今度の一万円札に洪沢栄一の消ぞう画が使われる。そこで埼玉県では洪沢栄一の魅力を全国に発信していくのが重要である。他にも埼玉県岩槻区にも有名なものがある。それはひな人形だ。そしてこれらすべてを発信するためには、インターネットなどとうこうするということが発信できる。
85	さいたま市は十分に文化芸術が発展しているのに、他の市町村や都道府県に寄付するほうがよいと思う。
86	僕はずっとさいたま市に住んでいるが、浦和や大宮などは文化芸術都市といえると思うので、岩槻や見沼などについても、もっとさかんにPRをして、観光客を呼びこめるような方法を考えていくべきだと思う。僕は浦和に住んでいて、大宮や新都心にはよく行くが、岩槻の方のことはあまり知らないし、行く機会もほとんどないから魅力的なものをつくって発信していくことが重要だと思った。
87	文化や芸術についてのイベントをやって、さいたま市をPR。
88	文化や芸術に関するイベントなどを開き、文化や芸術への関心を多くの人が持つようにする。
89	幼稚園・保育園や学校では、美術館や博物館や町内のお祭りへの参加を呼びかけて、参加してくれた人にはおかしをあげるなどの物の吊るという作戦が子供には無難だと思います。また、大人には興味を持ってもらうように週に1回に文化芸術に関する講義を実施する。そして、興味をもって色々なことに参加してくれた人々は、ふるさと納税みたいな大量の米や草下せんべいなどのけいひんを贈るべきだと思います。
90	1. 市役所や区役所などで、誰でも参加できる美術や文化を学ぶ教室を開き、そのことはあちこちで宣伝し、特に子供などが積極的に参加できるような環境をつくる。1・2. さいたま市が他の市よりも優れている点を知らない人が多いと思うので、さいたま市はここがいいという点を広める。

No.	提案内容
91	大宮の鉄道博物館で企画展を頻繁に行うようにする。小さい頃訪れた子供に、長い間来場してもらえらるから。鉄道を観光の強みにすれば、鉄道を通じて産業の活性化が見込まれるから。京都鉄博よりも人気になることで、1つの立派な観光産業になる上、元々アクセスは良い方であるから。
92	正直、さいたま市に文化や芸術との関連がないと思った。そもそも多くの人たちにそのことを伝えなければならぬため、パンフレットの作成をしたらどうか。また、さいたま市の文化資源で、鉄道なら展示会、漫画なら文化ホールのような所で多くの人により一層知ってもらうようにすると、もっと良くなると思う。
93	色々なジャンルのイベントを行う。さいたま市外の人も楽しめるようなイベントを行う。また、さいたま市内の人は割安になったりするものを売る。障害者も交えたものも良いと思う。スタンプラリー形式で、さいたまの有名なものや特産物のクイズを行い、スタンプがたまると、出店で何か1個無料で（おかし 草加せんべいなど）もらえるなど。また「文化芸術都市」といわれなくても、思い浮かぶものが少ないから、もっと知ってもらえるように子供用のイベントをやるのも良いと思う。
94	さいたま市に美術館、絵画展などを作る。さいたま市についての新聞を1ヶ月に1回発行する。（文化や芸術）土呂にある盆栽などを公立・私立の小・中学校に体験してもらい、盆栽の魅力を感じてもらおう。観光客にさいたま市の文化や芸術の良さを感じてもらうために、新聞や美術館や絵画展の表記を英語・中国語・韓国語などにしてわかりやすくする。パンフレットなどを配る。
95	子供から高齢者まで様々な年齢の人が楽しむことのできるイベントをつくったりする。例えば、この前のラグビーブームなどをつかってラグビー関係のイベントを開くとか、誰か有名な人を招いてイベントを開いたりしたら、市が活気づくと思います。さいたまスーパーアリーナとか、とてもいいイベント会場になる場所があると思うので、使えると思う。
96	さいたま市の文化資源である盆栽などを体験できるような場を設けたらよいと思う。鑑賞するよりも自分で体験できる方が、より興味がわくと思う。
97	鉄道（中でもサンライズ出雲・瀬戸などの寝台列車）を大宮駅まで運行区間を延長して観光に行ってもらうことで、ストレスをためず文化的な人が増えると思いました。
98	さいたま市が文化芸術都市として発展していくには、市民に身近にそれらに触れられる環境がある事が大切だと思います。僕は東京都に住んでいるのでさいたま市のこととは分かりませんが、僕の区の小学校では、図工の作品のコンクールがあったり区の作品展がありました。区の作品展は、それぞれの小学校からの代表作などが並んでいました。僕もそれに選ばれたことがあって行って見たら、独創的な作品がたくさんあって楽しかったし、来ていたお客さんも楽しんでいました。なので小規模なものでもいいので、作品展を開催したら文化や美術がより身近なものになると思いました。
99	「文化」や「芸術」というかたくなるイメージを壊すために、若い人が多く利用しているSNSに結び付けたいと思います。例えば、「インスタ映え」などです。「映える」美術品を飾り、そこに人を集めてSNSなどで拡散していけば、さいたま市の発展につながると思います。また、Instagramだけでなく、TwitterやFacebook、YouTubeなどでも良いと思います。それを積み重ねていくことで、他県からも人が来るようになってメディアで紹介されると、もっとさいたま市を発展させることができるし、利益にもなると思いました。
100	さいたま市の文化資源が盆栽、マンガ、鉄道、人形であることを他人にアピールすることが大切だと思います。文化芸術都市として文化や芸術が発展していることを世間の人々に認めてもらうためには、興味をひくような盆栽体験や鉄道体験など色々なイベントをするべきだと思います。
101	他の市・県にはないさいたま市特有の文化を様々な形でPRすることが大切だと思う。また、これからは文化を伝えていくために、さいたま市の小学生にもPRする。例えば、体験教室を開いたり、小学校でPRする時間を設けたりすることも大切だと思う。
102	さいたま市を文化芸術都市にしていくために、私は音楽・演劇・ダンスは発表、美術品や絵画などは展覧会を行い、まとめて「文化芸術祭」みたいなイベントを行えば、文化や芸術のことを色んな人が知れるし、自分も「ダンスやりたいな」「絵かきたいな」と思う人が増えて、どんどん文化芸術都市になると思った。また、アンケートなどで他にやりたいことや自分がやってみたことを聞いて、改善していけば文化芸術都市として発展していくと思った。
103	さいたま市が出している雑誌で、さいたま市出身のアーティストや小説家の作品を取り上げて宣伝する。さいたまスーパーアリーナや鉄道博物館、さいたま芸術劇場などでのライブやイベント、ミュージカルの宣伝に力を入れる。ショッピングモールなどで期間限定で行われているような盆栽や絵画の展示の機会を増やす。”さいたま市でしか”見れない、できないといったものを増やす。
104	さいたま市には伝統的な物（和紙・盆栽・ひな人形など）がたくさんあるのに対し、あまり県民も伝統工芸品に触れる機会が少ない気がする。また、東京から近い場所に埼玉県は位置しているが、工芸や文化に触れるために来る県外の人には少ないと思う。なので、広報活動を定期的に行い詳しい情報を発信し、多くの人に興味・関心を持ってもらうことが必要だと思う。また、外国語を話せるスタッフを数人置き、海外からの人に柔軟に対応できる仕組みを作ると”観光スポット”として人が集まってくると思う。
105	現代の人々は、まず本に触れる機会が少ないことが問題である。そのためには多くの人々が利用する駅などの公共施設に触れるきっかけになるものを作れば良い。特に駅のような待つ場所には適していると思う。では、どのような物を置けば良いのか？それは人気な文学本などの一番重要になっている部分をピックアップして、その部分を発見するような機械を置けば良いと思う。これがあれば、本の続きを読みたくなるきっかけを作ることができ、駅や図書館に置けば多くの人々がきっかけを作ることができます。発見する機械も目立つようなデザインにすれば、多くの人々の目について利用されるようになるでしょう。この機械によって埼玉県の人々は本に触れるようになり、文化芸術都市として発展していくと思います。
106	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、盆栽などさいたま市がほこる文化芸術などをSNS・ラジオ・TV・広告など、人の目につく所でアピールすることが大事だと思います。もしくは、さいたま市を文化芸術都市として発展させることを諦めることも一つの選択肢だと思います。別に「文化芸術」以外にも、さいたま市が持っている魅力はたくさんあります。それを活して、さいたま市を盛り上げれば良いと思います。もし、その結果さいたま市のあだ名がダサかったとしても、さいたま市の他の市にはない雑草魂を見せつけられただけじゃありませんか。無理に中高生にまでアイデアを募集するくらいなら「ありのままのさいたま市」でいいのではないかと僕は思いました。さいたま市にたくさんの魅力があります。色々なカテゴリー、市内ないたる所にまで目を向けて下さい。

No.	提案内容
107	ある行いが後世まで残るようにするためにイベントなりをつくり、その行事を年1度位のひん度で行い、数年間それを続ければ後々も残っていき、その行事がいつか文化になると思う。もしくは、今やっている祭りなどをもっと規模を大きくし、全国に知れ渡るようにして、その行事=さいたま市と思われるようにする。結論、何か行事を盛大に行い、それを何年か続ければ、それはその町の習慣になり全国に知れ渡り、その行事が文化であると自他ともに認められるように町となっていく。そうすれば、すぐには結果が出なくても、数十年後にはきちんとしたその市の文化となるから。
108	文化芸術都市と聞いて、僕は東京を思い浮べた。東京のように新しくたのしい感じに埼玉もなるた、有力な観光地や子供もたのしめる遊園をつくるのがよいと思う。
109	文化・芸術ときくと、すこし難しく感じたりかまえてしまうと思うので、コミックや映画・ダンスなどより身近なものに興味をもってもらえるようにすればいいと思う。さいたま市には盆さいという文化資源があるので、それをより楽しく知ってもらうために体験などをすればいいと思う。盆さいのオブジェなどをシンボルにするのもいいと思う。
110	昔、さいたま市にすんでいた文学者や芸術家の資料館などをつくったりすればいいと思う。有名な芸術家の展覧会を開けばいいと思う。定期的にアートなどに関するイベントを開いたらいいと思う。
111	さいたま市の文化をゲームやクイズにして知らせるようにして馴染みやすいようにすれば、興味がわく人が出て来るようになって発展していくと思う。
112	市の歩道に芸術品などを置き、市全体を一つの美術館の様な場所にする。市にある樹木を盆栽の様にして盆栽をアピールする。ラグビーワールドカップの流れにのって、ラグビーの教室やラグビー関連のグッズを売る。
113	私は、さいたま市の文化と聞いて盆栽を思い浮べました。ですが、私はさいたま市民なのに盆栽を見たことがありません。なので見たことがない・盆栽って思う人を減らすことから始めるべきだと思いました。そのために小学校の校外学習として、小学生に盆栽を見に来てもらったらいいと思います。しかし、ただ盆栽が飾ってあるだけで興味をわかない人がいると思うので、1個1個の盆栽にクイズを1個ずつはっておくといいと思います。楽しみながら学習をすると、頭に残るので良いと思いました。そこに行った子供が親や知り合いに盆栽の話したら、もっといろいろの人に盆栽を知ってもらえて発展できると思います。
114	さいたま市内にある建物の数々を不思議な形にしてみたり、その建築家のアートがつまったものを建て、日頃から子供などはその建物に接して、さまざまな考えを生み、自分自身の独創的な発想をできる人材をさいたま市出身として日本・世界に送り出すようにする。そうすれば専門大学などもできたりし、芸術に興味のある人たちが集まってき、しだいに文化芸術都市として発展すると思う。また、積極的なイベントも大事だと思う。例えば、絵をかくイベントだったり、特に小さな頃からそうゆうことにふれていると、才能というのができてくるので、幼稚園児～大人までさまざまなタイプにあわせ、イベントを行えばいいと思う。
115	さいたま市の代表的な文化、芸術作品を市から発信していく。
116	子供たちが気軽にさいたま市の文化や芸術に触れることのできるイベントなどを開いたりすることで、少しでも興味を持たせ、その子供たちがさいたま市の文化や芸術を受け継いだりと良くなると思う。
117	もっと街の中にオブジェとかアニメの像とかおいたりして、観光できるようにした方がいい。また、さいたまには観光するような場所がないから、芸術などを意識したテーマパークなどができたら、そのイメージが強くなり芸術として有名になると思う。さいたまの子供や人たちに芸術を作らせててんじさせても、ろくなものではないし、その作った人たちの知り合いぐらいしか来ないだろうから、もっと有名な芸術家とかアーティストに来てもらったり作ってもらったりしたらいいと思う。文化芸術都市にするのに子どもに何かをやらせたりしても得に意味はないと思う。もっと「有名になる」ということを意識して、ものごとをやっていかないとだめだと思う。
118	文化・芸術に関する体験をもっと増やしたらどうでしょうか。私は造花作り体験をしたことがありますが、自分でモノを作ることとはとても楽しく、しかもそれを持ち帰って家に飾ったり置いたりできる、という良い点があります。さいたま市には盆栽があるので、盆栽作り体験だけではなく「盆栽に見せかけておいて実は菓子だった」みたいな盆栽を知ってもらえるきっかけとなる体験とかでも良いのではないかと思います。(菓子だったら食べられるので、子供から大人まで楽しめるかも?)有名なアーティスト・絵画・美術品を呼ぶ。木や植物をおもしろい形に刈る。(ハート形・星形など) (インスタ映え?)
119	文化や芸術という漫画や映画などではなく、もっとかたい盆栽などを思いうかべます。私以外にも、このような考えの人がたくさんいると思います。なので、まずはみんなに文化や芸術はどのような物があるのかを知ってもらう機会が必要だと感じました。また、文化や芸術は音楽などの意外と身近にあるものもありますが、自分とは関係のほとんど無いものという認識が強いと思います。なので、もっとたくさん図書館に行き本を読んだり、絵やミュージカルなどに簡単に近づける、気おくれしてしまわないような所があれば、文化や芸術などを発展させていけると思います。
120	さいたま市といったら都会(大宮など)のようなイメージが強いと思うので、まずそのイメージを変えることが必要だと思います。私達と盆栽はあまり関わりのないもので、盆栽って何だろうときかれたら、よく分からない人が多いと思います。だから、盆栽に関する漫画やイラストつきの小さな冊子を配ったりして、盆栽ってこういうところがすごい!というような理解を広めていけば、さいたま市は発展している都市だけでなく、文化や芸術もすごい!というイメージもきつとついてくると思います。
121	「さいたま市の文化といえば、これ」みたいに定着すれば発展していくと思うので、さいたま市ならでの文化(例えば盆栽や鉄道など)をPRできるように、まずは盆栽の体験をできるようにしたり、鉄道だったら子供も大人も楽しめるような企画(例えばJRの方々はどうな仕事をしているのか見に行けるみたいな)をして、地元の人から定着させていければいいと思います。また、鉄道だったら大宮には鉄道博物館があったりして、周辺に電車も見れたりできるので、そのような施設もイベントを行ったりして、大人も子供も楽しめたら、もっと「さいたま市=鉄道」のようになっていったりするのではないかなと思いました。盆栽も前に書いた鉄道のように行えばいいと思いました。
122	みんながよく来る場所とかに美術品を置いて、解説や豆知識のようなことを書いたり、イベントや展覧会を開く。小・中・高生の美術の時間を増やし、芸術についてもっと教える。学校の教室とかにも絵画など多く置いて興味を持ってもらう。美術大学とかを増やす。人目につくところにその大学の宣伝を貼ったりして生徒数を増やし、その生徒たちが文化祭とかで展示物を作って、興味・関心を持つ人を一人でも多く増やす。美術だけでなく音楽系や演劇の大学とかも一緒にくっつけて、大きな学校にして影響力をあげる。年一ぐらいで芸術関係の所に行く機会を設けて、芸術に触れる。

No.	提案内容
123	私は東京都の立川市に住んだことがあります。そのときに駅の近くには作品が飾ってありました。さいたま市も同じように駅近くの空いているところに芸術作品を置いてみたらどうでしょうか。置いてみると華やかさが増え、市全体も明るく見えると思います。また私は都民なので実際には不明ですが、さいたま市が文化芸術都市ということを知っている人は少ない気がします。そこで、駅に「さいたま市にはこんな文化芸術がありますよ」といったものを置いたりするとよくなると思います。合わせて、先程提案した作品を飾ることが可能ならば、それも書くとわかりやすくなると思います。そして、根本的に芸術家がいるかということです。私は市民全員を知っているわけではないのでよく分からないのですが、芸術家が少ないならば、芸術家が活動しやすい場所を提供されてみてはいかがでしょうか。
124	現代はSNS上で情報が出回ることが主流なので、若者が興味を持つような何かを発信するべきだと思います。例えば「インスタ映え」する食べ物や建物などを駅やインターネット上に広告としてはり出したり、知名度の高い芸能人にさいたま市の文化や芸術についてテレビ等で話してもらったりすれば、少しでも多くの人が興味を持てると思いました。
125	例えば、普段の身近な生活空間に芸術を用いたらどうか。小・中・高生の作品展、プロの芸術家を招き入れたり、そういったイベント物や公園のベンチや古くなったトンネル内の壁などに作品を描くことで、ひょっとしたら町が明るく見えるかもしれない。私は、さいたま市が文化芸術都市として発展するには、身近で芸術を感じさせることが大切だと思った。そして、それによって多くの人が芸術のすばらしさ、美しさを見直すチャンスにつながる考えた。また、子どもの斬新な発想を育てることもいいと思った。
125	例えば、普段の身近な生活空間に芸術を用いたらどうか。小・中・高生の作品展、プロの芸術家を招き入れたり、そういったイベント物や公園のベンチや古くなったトンネル内の壁などに作品を描くことで、ひょっとしたら町が明るく見えるかもしれない。私は、さいたま市が文化芸術都市として発展するには、身近で芸術を感じさせることが大切だと思った。そして、それによって多くの人が芸術のすばらしさ、美しさを見直すチャンスにつながる考えた。また、子どもの斬新な発想を育てることもいいと思った。
126	鉄道や人形などを使い、面白い動画を撮ってネット上にあげればいいと思います。ただのPR動画だと、あまり最後まで見る気にならないので、1つのストーリー性を持った動画がいいです。他には子供達だけでできるような体験があったらいいと思います。（保護者同伴とかではなく）そうすれば、友達とかと一緒に行きやすいと思います。なぜなら親と一緒にいくよりも友達と一緒にいった方が楽しいからです。あとは、若者が興味を持ってくれるような芸術もある方がいいと思います。大半の人が盆栽などには興味を持たないと思うので。
127	さいたま市で有名な盆栽を発展させれば良いと思う。「古くさくてださい」そんなイメージを持たれている気がするので、何か現代の若者や外国人が好みそうなものとコラボすれば、世界的に有名になれるのではないかな？と思いました。それも盆栽に限らず、同じように若者、外国人ウケするものにアレンジしたら人気が出て、売り上げが上がり（大宮＝文化芸術都市）みたいなイメージになって、さいたま市の認知度が上がるのではないかなと思いました。
128	まず、一が一番多く利用する駅をもっとデザイン性のあるものにしたらいいいと思います。さいたま新都心駅のようにきれいで緑もふんだんに使っている駅は記憶に残るし、芸術的でいいと思うからです。また、埼玉市で有名なまん画・小説・詩と流やっているまんがやコミックを置いた大きいミュージアムのようなものをつくらたいと思います。中はマンガなどがかざってあるだけではなく、昔のマンガから今はりのマンガまで試し読みできるようなブースをつくれれば、かざってあるものを見にくるお年寄りから試し読みしてきた子どもまで、色々な年齢層の人が、埼玉のまんがや小説について知れると思います。なので、大きいマンガ・小説・詩など文学のミュージアムを作りたいと思いました。
129	さいたま市の伝統的な文化や他の町より優れている点を挙げ、それを町民や他の町の人々にプレゼンテーションで発表して、さいたま市の文化芸術都市としての利点などを細かく伝える。
130	さいたま市が文化芸術都市として発展していくために、美術館や博物館の内容を絞り込んで特化させることで、それらの個性を際立たせて興味を引けるかと思うし、もっと頻繁に個展を開催してみたらどうか。そして、さいたま市にはスーパーアリーナやソニックシティなどの大規模施設があるから、それらにアーティストを誘致して、もっとイベントを開いてみるのも良いかと思う。また、現代の若者向けのマンガ・アニメミュージアムなどを作っていくと良くなると思う。
131	盆栽などの今、文化や芸術を発展させるためにしていることを、展示会を開くなどしてより多くの人に知らせる。また、漫画の歴史や過去から現在までの漫画を展示する漫画ミュージアムのようなものを作る。また、文化や芸術にそったマスコットキャラクターを作る。
132	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、今まで以上にアピールしていく必要があると思う。大宮は盆栽が有名であるが、それを目にする機会はほとんどないと思う。自分は大宮のデパートで見たことはあるが、それでは多くの人が興味・関心を持つことは少なくなってしまうので、駅で大きく取り上げて多くの人や他の市の人に知ってもらう必要があると思う
133	公式SNSを作って、情報を世界に発信する。芸能人にPRしてもらおう。交通の便を良くする。インパクトのあるゆるキャラをつくる。
134	芸術の授業の時間を作る。さいたま市芸術の公式サイトをつくる、またはインスタの公式のアカウントなどをつくる。公共の建物などに絵を描く。→インスタ映えのスポットなどにする。さいたま市の芸術を面白くディスプレイする。有名なまんがなどの作家などとコラボする。フリースペースなどに自由に誰でも描けるような場所を設置する。近代的で、またたくさんさいたま市の芸術の良さを知ることができるミュージアムをつくる。
135	「翔んで埼玉」がとても話題となったので、第2作目の製作をすることによって、もっと埼玉が全国から注目されることになると思う。
136	さいたまスーパーアリーナとか、けやき広場でイベントしたら良いと思う。アリーナだったら音楽・ダンス系、けやき広場だったら、よくライブ後にオタクがやってくる生写真交換みたいに小説・絵画の展示とか店を開けると思う。
137	さいたま市についての「文化」や「芸術」についての美術館を建設したら、よりよくなると思う。そして、その建てた美術館の入場料を無料にし、外国の人にも分かりやすいよう、展示品の説明は多国語とする。また、子供から高齢者にも利用しやすいようにバリアフリーに配慮した建物造りにすると、よりよくなると思う。また、町並みをそのさいたま市の「文化」や「芸術」にあわせたものにする。（京都でいうと、屋根が瓦であるなど）さいたま市の魅力がたつたようなガイドブックを作成してみる。

No.	提案内容
138	京浜東北線の発車メロディ増やしましょう。大宮2番がオールディージャーなのに、なんで浦和はレッズじゃないんですか。あと、今使ってる希望のまち聞いても、希望のまちだって分かんない。もっと明るい曲でしょ？なんなら浦和6線全てそういう系でもよくない？発メロってみんな聞くんだし、おとなりの川口市みてみなよ。市の歌、発メロにしてたよ？さいたま市もやろう。なに、もうやってるって？あれは希望のまちじゃない。もっと分かりやすくしてほしい。
139	さいたま市の伝統的（→特徴・すごい点など）な物を展示あるのを期間限定で展示するなどをすればいいと思う。そのほかにもスーパーアリーナなどでやれば良いのではないかと思います。
140	市のコミュニティーセンターや公共施設に芸術や物づくりを体験する場を設ける。お祭りなどの際に室内で場を設けたら、人が多いし興味を持って大勢が集まると思います。行事ごとや何かのイベントごとに作るものを変えたり、テーマを変えたら特に良いと思います。
141	映画館で上映する映画のリストを増やし、映画に興味を持ってもらう。絵画の作品展を多く行ない、「来場してくれた方には商品券をお渡しします。」や「来場者の方に特別に抽選会を行います。」など行い、絵画に対して興味をひかせる。
142	芸術都市として発展させるには、学校ごとに様々な作品を展示したり、ひろうしたりするのがいいと思います。実際に私は、部活で私学文化祭というものに参加しました。そうすると、私は今まで触れていなかったジャンルも実際に目の当たりにし、刺激を受けました。私のように、このような機会を通して新しい考えを持つ人が、また1人、2人と増えていくのではないかと考えました。
143	①さいたま市の「芸術館」に行ったごとに〇〇ポイントをつけて、「5ポイントたまったら〜」、「10ポイントたまったら〜」をやる。「さいたま市〇〇クイズ」みたいなものをやり、正解したら景品を上げた方がいいと思う。
144	月に1・2回、例えば映画かんしょう会や、曲を決めそのダンスをみんなで踊る、マンガを作ってみるなどの楽しいイベントを行う。新聞に週1回ほどコーナーを作り、文化・芸術をみんなに広める。
145	まず、自分が思ったのはさいたま市が文化芸術都市であることへの驚きだった。このように、さいたま市が文化芸術都市であることを知っている人は少ないと思う。そのために、さいたま市が文化芸術都市であるというイメージを持ってもらうことが大切。例えば、京都のようにまち全体の環境をかえるべきだと思う。道や道路などに文化芸術都市をほのめかすような工夫をすれば、よくなると思う。
146	さいたま市には、文化芸術都市になる”もと”があまりないと考えます。ですから、さいたま市のある場所が、本や映画などに出てくる場所のモデルになったりすればいいんじゃないでしょうか。あと、さいたま市に美術学校や音楽学校などを作って、すぐれた人を育成して、何年後かにその人のファンなどがさいたま市を訪れ、もっと栄えるのではないかと考えます。
147	金をかける（重要）。そして、たくさん文化や芸術の看板などを作り、アピールすればいい。美術教室みたいな教えられる（学べる）場所を作る。
148	さいたま市が昔から持っている文化をまとめたものを作って、学校の授業に取り入れて子供に興味をもってもらおう。さいたま市出身の芸術家などを深く知ってもらおう。
149	いろんな所に芸術品を置いて、みんなが見れるようにすればいいと思う。あとは、展覧会などをさいたま市に呼んで、みんなに見せればいいと思う。そしたら、市民の芸術に対する意識も上がっていくのではないかと思います。
150	マンホールなどの身近にあるものに絵画などをデザインすれば、市民にとって文化芸術が身近なものになり、意識が高まると思う。また、東京オリンピックにあわせて、有名な絵画などを大宮駅などの主要な駅に展示すれば、さいたま市民以外の人も「さいたま市が文化芸術都市である」という意識をもってもらえると思う。
151	美術館みたいなものを作る（増やす）さいたま市にいる画家にお願いをして絵をかいてもらって、それを人が多い大宮駅のかべなどにはりつける。学生などでもすぐれた作品をけいじする（ずっとじゃなくても）今年参加した私学文化祭（私学だけじゃなくて公立でも）みたいな行事をもっと増やす。
152	私は盆栽町の近くに住んでいて、最り駅の土呂で外国人によく「盆栽はどこですか？」と聞かれます。なので、土呂にもっと分かりやすいように看板を作った方がいいと思う。あと、盆栽町側の土呂駅には、飲食などのお店が少ないので、もっともったくさんの飲食店があるといいと思う。あと、盆栽は若い人にも人気だけど、どちらからかといえばお年寄りの方が多いので、あるかどうかかわからないけど、シャトルバスとかあると楽しかもしれない。まずは、土呂駅をたくさんの人に使って欲しい。
153	文化芸術都市。それは、文化と芸術の両方がある初めて成り立つ。このことから考えるに、文化を芸術として表現していくことが、文化芸術都市への一歩だと思う。しかし、市だけが文化文化、芸術芸術といっているのは仕方がない。さいたま市に住んでいる人のみならず、訪れた人々にも芸術を感じさせる必要があるのだ。ここで私が考えるのは、芸術作品（もちろん文化的背景のある）人目につくようなところに設置したり飾ったりすることだ。人目につくようなところ、それは駅でも良いと思う。例えば、改札口を出た少し広い空間に置く。また、公共物と芸術の融合もおもしろいと思う。例えばガードレール。ここに文化的意義のある街を組み合わせて1つの作品にする。このように我々の生活をそっと芸術で包み込んでゆけば、市民も芸術に対する意識が変わってゆくに違いない。また、そのようにしてさいたま市全土に設置した作品のスタンプラリーなどを実施することにより更に注目的になる。まず初めに設置していかないと話が始まらないのだ。ここで話はころっと変わるが、市立小学校にこの文化芸術都市としての意識をもたせてみるのも非常に有効だと思う。小学生は次世代を担う。そんな彼らに文化芸術都市としてのさいたま市を発信していけば、まちがいなく発展する。次世代…これこそが重要だ。芸術作品も後世には残る。次世代へ次世代へと、どんどん文化芸術都市としての意識を強くしていくことが発展への鍵ではないだろうか。
154	I think we should increase the number of art classes and invite many famous artists to the art classes to Saitama City develop as a cultural artistic city. I have two reasons. First, there are a few people that are interested in art, so I think we should increase people that are interested in art. Secoud, maybe the number of people that want to be an artist will be increased because of listening to the famous artists.
155	美術展を開催するのはどうか。映画やアニメ、マンガなど子供から大人までの楽しめるものでイベントを開催したらどうか。普段かかわらない芸術（ろくろ回して器つくったりなど）を実際にできるイベントを開催するのはどうか。

No.	提案内容
156	さいたま市には、盆さい町などの盆栽で有名な地名があって、外国から多くの人があるが、それだけではなく埼玉の特産などを使って世界に通じるような文化を作りたいと思う。例えば、埼玉県のある有名な特産物の人形などを使って、大きなひなだんを作って、広いところで展示するなど。
157	さいたま市とは、普通に世間からすりや、ださいたま市というところだろう。イギリスやオーストラリア(?)のようなお洒れというイメージもない。人々の間に深く根付く、ださいたま意識を取り除くことは天理であろうと思われる。では、どうすればいいのだろうか。そこで私は考えた。現状を変更できなければ、それを受け入れてしまえばいいわけである。つまり、どういうことかと言うと、我々が憎きさいたま市は、永久にださいたまであるということを受け入れ、これ以上ムダなあがきをやめるとのことだ。がんばれよ。
158	埼玉スーパーアリーナのような有名なコンサートなどの会場で、文芸に関するさまざまなイベントを行い、全国に告知する。またそのさいに、埼玉県とくにさいたま市にかんする重要資料や飛んで埼玉のような埼玉を舞台にした本などをうって、紹介したりしていけばいいと思う。また、若者に人気のマンガを同じ1冊の本として、別の文芸作品といっしょにうりだすのもいいと思う。その他にも、文芸作品にかんする税金を少し減らすなどもしてもいいと思う。
159	盆栽の町として大宮をもっと宣伝し、世界で盆栽といえば大宮となるようにする。また、市内にある美術館で若者が興味を持つ企画をし、県内の小中学生に配るだけでなく、県外から人が来るように宣伝する。大きな駅などでワークショップを開く。
160	市民が文化芸術に親しむ感性を養うには、さいたま市の豊かな自然がもっと身近になるといいと思います。特に市立病院周辺は、自然が豊かなので、あのあたりを生かしてほしいです。このあいだ、あの近くのサイクリングロードに行ったら、あまり整備されてなかったの、ツール・ド・フランスをやる税金があるなら市民のためにサイクリングロードを整備して下さい。また、市立病院裏のグラウンドの横の小川は、僕が小さいころにはメダカがたくさんいたのに、今ではコンクリートで固められてしまっています。あのあたりは自然を保護する区域なはずなのに、さいたま市の自然がどんどん破壊されてしまつてとても残念です。さいたま市は自然を守るべきだと思います。
161	ダサイということを埼玉県は売りにしているので、ダサイアートを飾る美術館をつくらうといいと思います。
162	さいたま市には鉄道博物館があるので、もっとそれを有名にしたいです。ニューシャトルの値段をもう少し下げて、大宮から駅まで行きやすくするか、JRの方にもポスターを貼ってもらうとか難しいとは思いますが、これが私の提案です。大宮→鉄博の往復券が販売されていたのは、すごく良いと思いました！上から目線でごめんなさい。
163	さいたま市と芸術が結び付くには、さいたま市がどのような芸術をして文化芸術都市として発展させるかを明確にする必要があります。オール分野で発展しようとするのではなく、まずどの分野の芸術に力を入れるかを考えてから意見を求める方がより良い意見が得られると思います。反対の面に書かれた文化資源の4つを見てみると、若い人に身近でない物や興味がない人もいるものしかありません。文化芸術に力を入れていきたいなら、より多くの人に目を向けて考えるか、宝塚のように1つの物を大きくしていくかの2択だと思います。すぐに発展していくわけはないし、他より大きくしたいなら、時間を使ってゆっくり専門の人と話し合ってみても良いと思います。
164	もっと小中高生に対して、漫画や小説などの本を多く置いてもらいたい。そうすることで、みんなで漫画や小説を読むようになり、国語力(特に読解力や書く力)が高くなり、将来これらの学生が大人になった時でも、本や漫画を書いたり読んだりすると思う。
165	さいたま市は、盆栽・鉄道・人形などの様々な有名なもの、特産品がある。まず盆栽は、盆栽村の施設を生かして、イベントなどを開催して盆栽に興味をもってもらおう。鉄道は、鉄道博物館を生かして、鉄道に興味がない人も楽しめるようなイベントを開き、興味を持ってくれる人を増やすようにする。また、博物館以外でも一般の鉄道路線を使って臨時列車を運行し楽しんでもらい、興味をもってもらおうようにする。人形については、岩槻駅前に「人形」についてアピールできるものを置き、人々の注目が人形にいくようにして興味をもってもらおう。以上の3点を行うことにより発展すると思う。
166	公園や遊具のデザインを地方の小・中学生、主婦にってもらおう。写真大会等を小学校で開く。また、大宮駅や浦和駅、市役所等の人通りの多い場所に気に入った作品の投票所などをつくり、一般の人々が投票できるコンテストにし、忙しい人々も手軽に芸術に参加できるようにすると良いと思う。なぜなら「芸術」と言われると、ハードルが高く敬遠する人が多いが、投票などのような形で作品を展示・乾燥する機会をつくれれば、芸術に興味を持つ人が増えたり、市としても文化芸術都市へと発展させるきっかけになると思うから。
167	まずは、展示会から始めて人を集める。その次にアーティストを呼んで、アート大会をひらく。とにかく人を集めないで始まらない。狙いを定める。子供、中高生、大人、老人、どの層を狙うのか。子供は大人もセットでやってくるから人が集まる。子供むけならアニメ(アンパンマンなど)、おもちゃなどをくみあわせる。中高生なら最新のアーティスト(歌なら知ってる人が多い。)を呼ぶなど。
168	さらにたくさん図書館を作ればいいと思う。しかし、図書館を作るにはたくさん金が必要。なので、コンビニや店の店頭が目立つような貯金箱を作り、なるべく多くの金を集める。または、特定の商品を買った時に追加料金を払ってもらい、その金を建設費に当てる。本などは地域の人の古本などで構成し、コストをおさえて他の図書館の方に寄付する。
169	市の中で文化資源があったとしても、それが程度浸透しないと、文化芸術都市としての発展していると主張するのは難しいと思うので、まず身近なものとして文化資源があることをアピールするべきだと思う。文化資源を作ることが出来る人を中心として、集会などで体験講座を開くなどして広める。そして、その地域に文化があることを、そこに住む人に文化資源があることを知ってもらおう。
170	1. まず、埼玉県にはあまり文化や芸術が少ない。そのため、さいたま市を文化芸術都市として発展させることよりも、もっと他にすることがあると思う。
171	さいたま市を舞台にした小説を書いてもらおう。さいたま市の文化を紹介するパンフレットなどをつくる。テレビのCMなどで文化を紹介する。体験する会などをつくる、または建物をつくり、いつでも体験できるようにする。
172	美術館や文化芸術館を色々な所に設置したり、町の道路とか公園などの公共施設を工夫して、音楽で楽しめたり芸術をとり入れたら、もっと良くなるなど思いました。また、美術館があっても特に子どもはあまり行かないと思うので、芸術を感じてなおかつ遊べるようなところがあったらいいなと思います。そして、高齢者にも優しいように段差を少なくしたいと思いました。

No.	提案内容
173	まず、アクティビティ施設をもっと作るべきだと思います。さいたま市は少なくはないと思いますが、どうしても他の都市に流れてしまっていて、客が少なくなってしまうと思うからです。また、大宮・浦和などは別として、今特に何も特徴がない都市に芸術要素を加えて宣伝した方が良いと思います。たとえば、特になにもない駅にトリックアート要素を加えてみたり、夜にライトアップしたりとかです。また、できれば無料にした方が、ついでに観光してくれる人が増えて、宣伝効果もあがって良いと思います。また、駅や公園などの公共施設をきれいに整備し、もっと景観を良くした方が良いと思います。
174	コクーンシティとかに今、若い人たちが沢山集まっているので、コクーンシティで月一回ぐらいフリーライブとか、絵の展示会などを いて、沢山のの人にさいたま市が出身のアーティストなどを知ってもらい、写真撮映OKにしツイッターやインスタグラム、フェイスブックなどのSNSで拡散してもらい、コクーンシティに来ていた人だけでなく、他の市の人や他の県の人達にもさいたま市の芸術活動について知ってもらい、全国的にも有名なアーティストをはい出して、芸術家にとって有名になりやすいような機会を沢山作る。
175	僕はさいたま市が文化芸術都市として発展するためには、義務教育中（特に小学校など）での教育方針を改良すべきだと思います。なぜなら、文化・芸術に対する姿勢や才能をある程度育てられる物だと思うからです。生まれつきの能力はあれど、小さな頃から文化や芸術に触れる機会が増える事で、僕達よりも文化芸術活動に対し敷居が低くなり、今までならば埋もれていた才能もきっと見つけ出され、よってもしこれを実現できれば、改良された教育を受けた世代の中から日本の文化・芸術を引き率していく優秀な人材が輩出されるはずです。
176	鉄道博物館を子ども向けだけでなく、大人だけでも来て楽しいような場所にする。例えば、会社が帰りの人向けに夜に（週に何回か）定期的に遅くまで開けておくとか、クリスマスやハロウィンなどの時は、昼は子ども向け、夜は大人向け（大人も来ることができる）ようなイベント（特別なイルミネーション、クリスマスマーケット《電車型の屋台》を開くなど）を開催するなど、電車好きな人が、どの世代でも来やすいようにする。
177	私は、文化と聞いて日本の行事を思い浮かべます。最近の子どもたちは、年齢が上がるにつれて日本の文化とふれ合う機会が減ってきていると思います。これから海外の人と接触する機会も増えてくるので、日本の芸術や文化を自分が紹介できるようにしたいなと思ったりもしています。だから、学校や地域のショッピングセンターなどで日本の工芸品作りの体験や日本特有の柄や材料を使用した芸術品の展覧会などをもっと頻繁に行えば、自然と視界に入るし、現代アートをとりいれれば、さらに若者の興味を引くことができると思います。個人的には、水引を使う体験に興味があります。何か自分の特技にできるような体験をしたいです。
178	さいたま市の特に中心部や栄えているところに目立つ絵とかにおいて、写真をとりに来させて有名にさせる。映え。さいたま市で映画とったりして、観光客をたくさんよびこんで有名にさせる。まだ熱が冷めない翔んで埼玉をもっともっとアピールして、翔んで埼玉グッズをつくる。映画出演者のサイン入りのものもつくったりしてみる。ターゲットを若い年代の人にしたら、文化芸術都市として発展していくと思います。
179	さいたま市の駅構内や人気のある地域に有名な芸術家の作ったオブジェやスタンドグラス、絵画などを飾ると良いと思います。また、地元の子供達に学校と提携して美術の授業等で作った作品や老人ホームでおじいさん・おばあさんが作ってくれた作品なども飾ることで、埼玉県内・県外からも多くの観光客が来て、自分の家族の作品を鑑賞することで、芸術に興味・関心を持つことが出来て一石二鳥だと思います。
180	今現在、地域の人や年配の人との関わり、交流の機会が少なくなっていると思います。私も昔は地域の餅つきや交流会に積極的に参加していましたが、今ではあまり参加できていません。年配の人の文化が若い人へと伝わっていくことも大切だし、若い人の文化が年配の人に伝わっていくことも大変重要だと思います。絵画や盆栽など、身につけるのが難しそうな物からではなく、参加するのが簡単そうな地域の行事などを推し進めていくことで、年配の人も若い人もより楽しく毎日の生活がよりよくなっていくと思います。私も積極的に地域の行事に参加していきたいです。
181	私は文化・芸術と聞くと、アニメを思い浮かべます。今や外国でも人気になり、日本でも人気になってきたように思います。そこで、埼玉の地を舞台にしたアニメを何本か作成することを提案します。そのアニメが「あの花」のように有名になれば、埼玉を聖地と呼んで訪れる人が多くなると思うからです。実際、研究発表として私もアニメを作成しています。手間のかかる作業ですが、作ったものが有名になれば、一気に知名度が上がり発展していくと思います。今年話題になった、とんで埼玉が流行語になれば、発展していくと思いますが…。
182	さいたま市内に芸術家がつくったオブジェをたてる。さいたま市内の駅をデザイン性の富んだ駅にする。例えば、その駅周辺で有名なものや伝統的なものをイメージする。商店街や人通りの多いところで雰囲気の良い音楽をかける。独創的な芸術品や絵画、彫刻を集めた美術館をつくる。（その美術館の外観も独創的なものにし、世間にも広まるようにする。）
183	さいたま市に文化芸術都市として発展する必要はないと思う。なぜなら、わざわざ税金を使ってすることでもないし、そんなことをする前に、なにか災害をおきた時のためにお金をためた方がいいと思う。
184	さいたま市が文化芸術都市として発展するためにはとありますが、まずさいたま新都心をつくるためにたくさんのお金を使って、結局失敗されたようなので、もう少し時間を置いてから考えた方がよいと思います。ところで、さいたま市には全国的に有名な文化や芸術があるのでしょうか。たぶん、さいたま市に住んでいる人でさえ詳しくは知らないと思います。なので、小中学校の授業に自分の市について、よく知ることができるカリキュラムを導入した方が良いと思います。
185	さいたま市の子どもに、さいたま市の文化芸術をインプットさせて後継者を生み出さなければ、発展するどころか文化芸術が死ぬことになる。色々な出身芸人をPRにつかう。
186	給食を無料ですべての私立校に備える。芸術家を呼んで何か作ってもらおう。芸術家育成学校を増やす。さいたま市ゆかりの品などをもっとアピールする。
187	さいたま市の文化資源である盆栽・漫画・鉄道・人形などを、さいたま市出身の芸能人であるJoyなどがアピールする番組をテレビさいたままで毎日放送する。そして、さいたま市の魅力度ランキングが関東で3位になるように日々精進する。また、JoyのYouTubeの個人チャンネルでも、さいたま市の魅力を伝えるようにする。
188	さいたま市にでも残っているだろう昔の物を集めて展覧会とか、昔の物の技術を参考にして建物をつくればよいと思う。
189	「さいたま」という残念な地名が、若者には「何もないところ」という残念なイメージを持たせているため、地域名を変えイメージを変える。その名前は、以下の5つの候補から選んでほしい。ピカソ市→ピカソは至高、ボンバー市→芸術は爆発、RMC市（ロイヤルミルクティーチョコレート市）→女子が群がりそう（タピオカは古い）、TPP市（トランプ・プーチン peace市）→ひびきがもうすばらしい、DTO市（ださいと思った？市）→ドヤ顔で紹介できるね！

No.	提案内容
190	公民館をなくして美術館をたてる。駅前によく分らん銅像をたてる。
191	草加せんべいをたくさんつくって、たくさん売る。(草加市をさいたま市に合併する。)
192	さいたま市だけでなく、埼玉県で発展していくために草加市の発展も進めていくべき。
193	博物館を沢山つくる。→トラックなどで出張して、他の県を回る。ポスターを作って、他の県に貼って有名にする。埼玉に来てもらうようにして、埼玉の観光地に博文館を作る。
194	さいたま市には、大宮氷川神社や調神社等、旧武蔵國の長い歴史・文化を象徴する神社仏閣がたくさんあるので、もっとアピールすればよい。又、社宝等をもっと公開すれば尚良い。子連れのお客は、博物館を無料にすることや鑑賞教室を開く。文芸に親しませるといことで、純文学の作品に限定した読書感想文コンクールを中高部門・社会人部門に分けて開催したり、小説の新人賞の公募もしたらいい。又、隣の市の川越には、小江戸ブランドがあるので、相互の文化財を関連付けて一緒に展示すれば、お互いのブランドが一層強化される。
195	PR活動にもっと力を入れる。芸術作品の買取りを始める。芸術家に免税を行う。芸術家に支援金を支給する。都市全体に芸術的なもの(何でも)を設置する。人々に文化的・芸術的教育を行う。
196	さいたま市が文化芸術都市として発展することは不可能である。文化や芸術がその地に根付くには時間が必要である。今すでにある文化芸術都市としてはウィーンがある。ウィーンは古くからの歴史がある。さいたま市なんて、つい最近できた都市がそのようになるのは無理があるだろう。さいたま市は、古典的な芸術ではなく、現代的な芸術を取り入れるべきだ。とは言っても、様々な種類がある。人の裸体や血などが入っているだけで展示しないようでは無理でしょう。とりあえず町をきれいにしてくれ。
197	さいたま市は首都圏に属するというのに、他の都県と比べて観光スポットや文化芸術都市というものがないと感じる。「文化芸術都市」と言うのが難しいので、観光スポットと言い換えよう。神奈川には横浜の中華街、千葉にはディズニー、東京には挙げ切れないほどのものがある。では、埼玉はどうか？レイクタウン？、大宮？、コクーン？頑張ってこの程度なのではないか？どれも寄せ集めたものを大きな都市に見せているように感じれると思うが、それでも栄えているのは、きっとそこで時間を使う人々が、独自のアトラクションに頼らずとも楽しめるような人々なのではないか？純粋に友人、恋人、家族と楽しめる心の清らかな人々でしか楽しめない都市なのではないか？「アトラクションに頼らずとも自分、そして周りの人々の素敵さに気付ける都市」を売りにすれば、少しは埼玉も発展するんじゃないですか？(笑)
198	まず、コバトンとさいたまの紫色が微妙なので、子供に好かれる愛らしい色を使うべきだと思います。パステルカラーを使うだけでも、埼玉のイメージが明るくなると思います。それから色の組み合わせです。微妙な紫に所々見られる茶色の線が気持ち悪さを増させて、埼玉の地味な感じを際立たせています。さいたまの場合、さらに赤すぎるほっぺが加わっていて、学生からの評判も悪いです。コバトンは黒目とあわせて2.5倍くらいにしてあげて下さい。これまで、埼玉県のキャラクターの話をずっと書いて、さいたま市のことを全く述べていませんが、まずは埼玉県自体のイメージをよくしないと、さいたま市が発展することは不可能だと思います。
199	駅を近代的にするか古風にするか、唯一無二の斬新・ユニークなスタイルにする。そして、図書館の内装も同じスタイルにする。様々なアーティストとコラボして沢山個展とか開く。何かその場だけの世界観をつくれれば、その都市の雰囲気が変わると思います。(駅が効果的だと思います)あと、クリスマスなら少しだけ街に光を付けたすと良いのでは？と思います。イルミネーション、とにかく駅が第一印象を決めると思います。木を象徴的に植えるのも個人的に素敵だと思いますし、花を植えても良いと思いました。個人的に芸術都市と聞くとフランス(綺麗系)を思い浮かべるので、綺麗系で攻めたら良いと思います。上からでごめんなさい。
200	まず、市内に無料で入ることのできる美術館をつくるのがいいと思います。僕は埼玉県の他の市の無料で入れる美術館に行ったことがあります。そこでは、常設されている展示品に加え、毎月置かれる展示品が変わります。こういう施設を市内に置けば、市民の芸術への興味がわき、さいたま市が文化芸術都市として発展していくと思います。また、公園の遊具を芸術風にするれば、大人だけでなく子どもたちの芸術への関心も高まると思います。
201	さいたま市は、文化にたいするイメージが全くないので、えいがかんを増やしてむりょうでゆうかんできるようにすれば、ほかの市のひとやほかの市のひと、それをもくてきにさいたま市にえいがをみにくるとおもうし、さいたま市にえいがというぶんか根づくとおもいました。また、美術館などをふやしたら良いと思いました。
202	さいたま市は、文化に対するイメージが全くないので、映画館を増やして無料で入館できるようにすれば、他の県の人や他の市の人もそれを目的にさいたま市に映画を見に来るとおもうし、さいたま市に映画という文化がねづくとおもいました。それにともなって、映画館の数も増やした方が良いとおもいました。以上です。
203	例年、日本全国の魅力度ランキングで、埼玉県は下位になってしまっています。その原因の1つとして、埼玉県はこれと言った観光場所が無いことだと思います。東京や神奈川に住んでいる友達に聞いても、大宮駅くらいしか出てきませんでした。僕自身も埼玉県に住んでいますが、観光場所と言ってもぱつと思いつきません。なので、文化芸術都市として発展させることは、とてもいいことだと思います。世界で通用するようなアーティストを輩出したり、積極的に絵画教室を開いたりすることで、SNSで拡散され全国の人にその情報を届けられると思います。Titterやインスタなどの公式アカウントも作った方がいいと思います。
204	世界中から有名画家が描いた美術品を買いあさる。埼玉県内に美術大学を大量に作り、そして芸術家を増やして有名になった人に美術品を贈ってもらう。各駅に美術館を建設して、必ず目につくような場所にする。その美術館内部にボックスを各場所に設置したり、それなりに由緒ある神主さんなどと呼んで、パワースポットとして売り出して、日本中から観光客が来るようになるし、さいたま市民は美術館に行きやすいため、さいたま市民は皆、幸せになれる。なので、美術館を大量に建築する。
205	さいたま市には、たくさんの方が住んでいます。それなのに、シンボリックな建物や観光スポットが無いと思います。そういったシンボルは、色々な文化を生んだり運んできてくれます。なので、そういった文化的なスポットを作ってみるのはどうでしょうか。徳島などは、島全体を使った文化スポットを作ったりしています。他の県にもそういったスポットはたくさんあります。埼玉県には美術館が少ないと思います。行く機会が少ないというえに数まで少ない。よって、もう少し数を増やして、脳の発達が活発な小1~小6までの間に美術館や博物館に行く機会を増やして、芸術に触れる機会を増やせばいいと思います。そうすれば、都道府県別魅力度ランキング万年40位から抜け出せると思います。がんばってよりよい市にしてください。

No.	提案内容
206	僕の埼玉県のイメージは、大宮駅が広いというイメージしかなく文化芸術が発展しているイメージがないので、1つでもみんなにしんとうするものができるだけでも埼玉県の文化芸術が発展すると僕は思います。近くに東京や神奈川があって人が集まると思うので、盆栽の埼玉みたいなイメージをもってもらうためにがんばってください。
207	ぼくは埼玉県井は観光のできる場所が全くないと思います。あと、映画の「とんでサイタマ」でバカにされたくらいダメな所しかないと思います。だから、もっと埼玉県に行きたくなるような観光地をつくった方がいいと感じました。また、他の近くの東京都や神奈川県にも劣っているから、そこらへんにはないものをつくればいいのかなあと感じました。
208	月に1回、大宮駅などの利用者が多い駅に美術系の展示をしたらいいと思います。例えば、大宮駅の近くのホールで展示会をしたりすると発展していくと思います。また、図書館を駅の近くにつくことで利用者が増えていくので、文化に興味を持つきっかけとなると思います。他にも、さいたま市の小学校で授業の一環として、近くの図書館に行く機会をもうけて、読書の楽しさが分かるようになったり、読書が楽しくなると考えます。発展させたい文化を人が集まる所でやるべきだと思います。
209	さいたま市の色んな所に芸術作品や絵画の写真、ポスターがはられれば、色んな人たちの目にも入るし良いと思います。また、その地域と特徴ある文化を発信できるよう、見学や体験ができるブースなどをお祭りや地域センターなどで設置したり、その分かを利用したものづくりを楽しく行えるように小学校などで体験会を行うなどが良いと思います。絵のポスターなどは学校にはったり、展示会等に興味をもってもらえるようなイベントやポスターを配布したりすると良いと思います。市民の方々が製作したオブジェなどを展示し、自分もこういうものをつくってみたいなという思いをそそるようなものを市内にたくさんつくると良いと思います。
210	私が住んでる所の近くに盆栽美術館があり、このあいだもたくさんの方が訪れていた。また、さいたま市を題材にしたテレビ番組で盆栽のことをやっていた。しかし、さいたま市の盆栽を全国に広める前に、さいたま市の人々がそこまで盆栽のことについて良く分かっていないと思う。その他のさいたま市の芸術も同様であると思うので、まずは、さいたま市民が自分たちが住んでいるさいたま市の芸術を深く知ることによって、そこから全国へ発展させることができると思う。自分たちの市の芸術に対し、興味を持ち知ろうとすることが発展につながり、それが広まっていくことで各地に広まると思う。
211	私は、市内にさいたま市の文化や芸術を発展させるために、市内にポスターをはって沢山の人の目に知られるようにすれば良いと思います。また、そのポスターも多くの人から興味を示してもらうためにも、さいたま市のマスコットキャラクターや有名なアニメキャラクター、埼玉県出身の有名人の方などを使うと良いと思います。芸術において、ダンスや演劇などは沢山のいろいろな人に見てもらえるよう、大きなホールなどで学芸会を開くなどすると良いと思います。
212	まず、さいたま市の歴史を詳しく知った上でないと、文化をより発展させることはできないと思います。なので、さいたま市の歴史をたどり、どこでどのような文化が生まれたのかを探し、見つけ出すべきだと考えます。それぞれの文化にそれぞれの芸術が存在しているのではないかなと思うので、さいたま市特有の文化を見つけることが、さいたま市特有の芸術を発見することにつながるのではないのでしょうか。その上で、現代に生きる私たちに形としての歴史・文化・芸術を解釈し、さいたま市古来の考え方に私たちに新しい考え方を付け加え、それらを形として表現するために建造物を造ったり、絵を描いたり、行事（祭りなど）を行ったり、時には型にはまらずにプロジェクトやマッピングを使って県庁に映し出してショーを行って、文化を広めていったりしてはどうでしょうか。人々の興味を引くような楽しいことならば、より多くの人々がさいたま市の文化に触れられると思います。
213	大宮は盆栽が有名だと思うので、そのことをもっと広めたら良いと思います。外国人は盆栽に興味があると思うので、さいたま市が盆栽が有名だと聞けば、外国人も東京だけでなく、さいたま市にも観光に来るようになると思います。
214	わたしは「文化芸術都市」という言葉を聞いて思いついた街は、市民がさいたま市の歴史や文化、伝統などの芸術を大切にしていき、それらを後世に伝えていく街だと思いました。さいたま市の文化・芸術には、たとえば大宮の鉄道博物館、まがたま、はた織りなどがあります。それらの良さや特色を誰が見ても分かるような漫画にすると理解が深まると思います。また、最近話題になった映画「翔んで埼玉」は、埼玉の地域ごとの特色や地名、特産品がわかりやすく映画にでていて、おもしろさも交えたものとなっており、とても埼玉に対して興味が湧きました。このような作品を埼玉の文化・芸術を元にして作っていくのが、さいたま市が文化芸術都市として発展するのに良いと思います。
215	全国にさいたま市の良さをアピールをする。テレビ埼玉を利用する。人気がでそうなデザインのゆるキャラを作り、地道に宣伝をしていく。他の県にはないオリジナル商品を作り出す。インターネットを利用する。ツイッター、公式ブログ、公式サイトを作り、アピールする。また、さいたま市はどこが良いか、住んでいる人にアンケートを行い、住んでいる人から見たさいたま市を調査する。
216	まず、さいたま市の人にさいたま市の歴史について知ってもらい、文化を身近なものにする。市が文化についてのけい示板やチラシにして、さいたま市民の人々に文化についてを考えてもらう必要生がある。テレビさいたまやラジオなどもつかい、いろいろな場所で行うことができるようにする。人気が出そうなゆるキャラなどを作って、さいたま市自体を有名な都市にすることで、文化も自然と知ることができるかもしれない。公式ツイッター、公式ブログ、公式サイトを作る。
217	さいたま市にいる芸術家の卵を大切に育てる。インターネットを通して、さいたま市の文化や芸術などを広める。例えば、今若者の間で使われているツイッターやインスタグラムで芸術作品などの写真をとって、あげるなどする。
218	まちのいたるところに美術的なオブジェでも置けばいい。歯科やコンビニエンスストアぐらいの数の美術館を設置したらどうか。近くに住んでいる小学生などが「あぁ～ひまだな、美術館行こ！」というぐらい軽い感じでいけるように身近にあればどうか。その地域特有のものを生かして、産業を発展させていけばどうか。
219	大宮駅や浦和駅の近くに絵や人形の置くコーナーを作る。改札ふきんに置くと、様々な人が見れると思う。
220	埼玉県には、春日部や加須などアニメの舞台の地になった所は多いと思われるから、さいたま市も埼玉県の中心として、埼玉県出身の漫画家にさいたま市を舞台としたものを書いてもらって、それをアニメにするといいと思います。そうすれば、多くの人々がさいたま市に集まり、1つの文化都市になるとぼくは考えます。今、世界でもアニメなどのものは熱いので、それに乗るのもまた1つの方法だと考えます。アニメの地の設定にはお金がかかるだろうけど、まあがんばってください。

No.	提案内容
221	表面に「考え方の参考になるキーワード」の文化資源として、「盆栽、漫画、鉄道、人形などなど」と書かれているが、そもそも今、全世帯のほとんどにスマホが普及され、なかなか文化資源に触れる機会が少なくなっている。そこで、最近行われたモーターショーのようにさいたま市の文化資源を一つの大きな所で市民に披露する。その際、例えば盆栽と人形のコラボのように、いままでやったことがないことを見せると、おそらく小さな子供や高齢者の方々の興味を引くと考えます。
222	さいたま市内にある小・中・高の美術作品の中で優秀な絵を集め、美術館を開きるといいと思う。新たな伝統にしたいと思う行事を作って、毎年それを行なっていく。
223	さいたま市にはまだ出来たばかりなので、特徴的な文化や芸術がないとは言い切れないが、他の埼玉県のと比べて限りなく少ないと思う。だから、他の埼玉県の市町村の役所からその市町村についてよく知っている人を全員集めて参考にするべきだと思う。その場で生まれた文化や芸術はさいたま市のみならず、埼玉県のものとなれば面白いと思う。また、大人だけでなく若い人や子供たちからも意見を集め、その中でも多かった案を新しい文化として確立させるべき。
224	美術館に多くの美術作品などを展示して。駅などを芸術作品のようにアレンジをする。生徒や学生が積極的に美術や文化について予習するようにする。
225	たとえば、さいたま市の学校全てが美術品を見学する会などを作って、芸術に関心を持たせることが大事だと思います。そして、それぞれの学校の図工・美術などの教科を使って、芸術を楽しむ方法を先生が教えることが大事だと思います。また、長期休みの宿題に「美術館を見学し、レポートを書く」というのを出して、芸術を目で見て感じて、興味を持たせたら良いと思います。
226	さいたま市やその近辺を題材にした小説やマンガをもっと宣伝する。（弱キャラ友崎くんなど）どこが文化芸術都市なのか、もっと具体的に提示してほしい。
227	僕の思う所では埼玉の歴史文化を日本及び世界に発信していくべきだと思います。東京都は一部を除いて多くの元々外堀の門があった場所に立札を立て、その歴史について解説しています。江戸城の半径21km以内ならば適当に歩くだけでも様々な掲示板を見つけることができます。東京都と違い、埼玉県はその辺りの歴史が少ないことはよく知っていますが、元々誰その館などがあっても関わらず、立札、記念碑一つも建てずに忘れ去られている場所が多々あります。もう少し埼玉の歴史について見直してほしいと思います。
228	盆栽や演劇などが見られる場所をもっと増やしたりする。また、外国の人も見られるようにしたりすればもっと良くなると思う。（字幕などを使い分かりやすくする）
229	さいたま市を文化芸術都市にするためには、市内の学校に積極的に芸術活動をしたり芸術についてのイベントや芸術のすばらしさについて話す講演会などを開いてみた方が良いと思います。そして、芸術に触れる機会を増やしたらもっと良くなると思います。そうすれば、芸術に興味を持つ人が増えると思います。自分も芸術は好きなので、さいたま市と言えば芸術ということ周りに広めたいです。
230	私は、さいたま市が文化芸術都市として発展するために、「盆栽」についてももっと知ってもらえるようにしたら良いのではないかと思います。例えば、「大宮盆栽美術館」に見学に行ったり、実際に盆栽を作ってみるということをすると、良くなると思います。
231	一人ひとりが小説や漫画などを作って、作った物語をみんなで読み合ったり、どの物語が一番面白いか決めたりしたらどうか。また、それをダンスや美術品を作って発表するともっと良くなると思います。
232	僕は文化は独特な技術や考えのことを指すと思います。文化芸術都市として発展するために、さいたま市は、盆栽に関するイベントを開いたり、絵画も「自然について描く」などの大会を作った方が良いと思います。
233	私は、文化や芸術と聞いて伝統や絵を描くこと（何かを作る）ということだと思います。また、実際にやってみようと思うことは、その地域の文化や、芸術を体験してみたいと思いました。例えば、和紙を作ったり人形の作り方を教えてもらえると、文化や芸術に興味を持つかなと思いました。文化芸術都市と聞いて、私は色々な地域の文化があり、良いところなんだという印象になります。さいたま市を文化芸術都市にするためには色々な文化や芸術と触れ合うことを多くし、昔からの電灯は未来でも続いていけるようにする。あと、それをもっとレベルアップしたものを作ってあげれば良いんじゃないかと思いました。
234	美術館を建てたり、映画と劇場をくっつけて2階建てにしたりしたら、みんな芸術に触れたりできると思います。また、小さい子どもでも遊べる、チームラボのような物を建てたりしたら良いと思います。美術館では、もっと明るい感じが良いと思います。
235	文化芸術都市に発展させるために文化資源を使ってイベントを行った方が良いと思いました。たくさんイベントを行うことでその商品や資源の良いところを知ってもらえるからです。また、そのようなイベントを様々なところで行うことによってより多くの人を知ることができます。それから、さいたま市だけに限らず、埼玉県の他の市や他の県などでも行っていった方が良いと思いました。
236	文化芸術がよく分かるような建物をたくさん作った方が良いと思った。
237	絵が下手な人は努力してもそこまで絵の技術は変わらないので、絵が上手な人が出てくるのを待っていることはできないと僕は考えている。それ以外には、小学生の授業に美術を入れておいた方が良い。ついでに、公民館で美術展を開いても良いと思う。
238	岩槻の人形などを七夕の時にさいたま市全体に飾る。
239	もっとさいたま市の良さを前面に出した方が良いと思う。
240	実際に見てみたい物はゴッホやラッセンなどの有名な人の絵を見てみたいです。見てみたい理由は、実際にこういう絵を見て、同じようなすごくうまい絵を描きたいからです。僕のような人もいると思うので、有名な人の絵を見てみたりする行事があれば良いなと思いました。文化芸術はとても良いことだと思います。
241	さいたま市のところに、日本の文化の武道、空手や柔道、少林寺拳法などの体験会を開いたり、駅の近くに飲食店を設ける。町の暗いところを明るくする。オリンピック競技の体験会。オリンピック選手を呼ぶ。環境に対する地球温暖化について考え、取組をする。そうする取組で、近くの県から観光に来る人が増えるかもしれないと思う。商店街を明るくして人々が楽しむ場所にしたら良いと思います。

No.	提案内容
242	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、まず市民の方々に興味を持ってもらうことが大切になると思います。例えば、幼児の子どもを持つ親子層に注目すると、親子で協力して作れる昔ながらのおもちゃ作り体験などを企画すると良いと思います。そうすることで楽しみながら文化や芸術に触れることができ、文化芸術都市として発展する良いきっかけとなります。それぞれの年齢に合わせた企画を提案することが文化芸術都市として発展する近道となると思います。
243	さいたま市は、よく「何もない場所」と言われますが、必ずしもそうではありません。例えば、「鉄道博物館」や盆栽、岩槻人形など、たくさんの伝統文化や技術があります。しかし、今の子どもたちはその文化の存在を知りません。私も数年前まで知りませんでした。さいたま市のこれからは、私たちにかかっています。だからこそ、さいたま市の伝統文化などに触れる機会を設ける必要があると思います。例えば、盆栽の展覧会や、さいたま市出身の芸術家の作った作品に触れるなど、子どもたちが「さいたま市の芸術（文化）ってすごいな」と思ったり、自らもその仕事に携わってみたいと思ったりするはずです。そういう子どもがひとりでも増えてくれれば、さいたま市は「何もない場所」ではなく、「芸術や文化が豊かな場所」として発展していくと思います。
244	さいたま市は鉄道で有名です。例えば、「鉄道博物館」があります。毎日、他の市や区からそこにたくさんの人が来ています。実際に自分も鉄道ファンなので、東京都民ですがさいたま市によく来ます。ですので、鉄道の名車を使って、市が鉄道を使ったイベントを行えば良いと思います。結構お金はかかるとは思いますが、実現したら鉄道という文化で発展できると思います。
245	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、イベント・フェスティバルを実施したり、さいたま市は人口が多いので、それを生かして、人がたくさん集まる場所で文化的な小物や、芸術作品を置いたりして、もっと色々な人に触れるようにするべきだと思います。そうすることによって人々がさいたま市の文化や芸術に興味を持ってくれると思います。
246	現在さいたま市に美術館などの文化を展示する場所が少ないと思う。だから私は「アートストリート」のようなものを作ってみたら良いと思う。現代っぽいものや、流行っているものを芸術化などしてみると人が集まると思う。そうしたら、さいたま市が文化芸術都市として発展すると思う。また、そのようなストリートを増やしたり、季節ごとに展示するものを変えたりして、関心をずっと持たれると思う。
247	さいたま市の文化資源である、鉄道にさらに力を入れた方が良いと思う。何故なら、鉄道が好きなのはそこまで多くないため、鉄道がもっと身近なものにしていくのが良いと思ったからだ。例えば、様々な在来線や特急、新幹線が集まる大宮駅でさいたま市の学生や児童に向けての学習イベントなどを開き、鉄道に関心を持ってもらうのが良いと思う。
248	さいたま市を芸術都市として発展させるためにはまずそれぞれ自分が関係している「芸術」のために交流を行うべきだと考えます。例えば音楽を行っている人がいるとすると自分だけではうまくいかないことがあるかもしれません。なので私は交流を行ううまくいかないことを他人から教えてもらえる。そういう場を作ることによってさいたま市が文化芸術都市として発展するのではないかと考えます。また、交流のみではなく、発表会などを行うことでさいたま市に「芸術」が浸透するのではないかと考えられます。今回は音楽で考えましたが、演劇・ダンス・美術作品についても同じことが言えるのではないのでしょうか。そして、さいたま市が文化芸術都市として発展していくと良いと思います。
249	人形や盆栽や鉄道を使ってさいたまの町並みを作る。
250	さいたま市が文化芸術都市として発展させるには、盆栽や鉄道が有名なので、その2つを重視すれば良いと思います。鉄道は、「鉄道博物館」が有名なので、来た人にワークショップや係員の説明をすれば、来る人がもっと増えて、更に発展すると思います。盆栽も、色々な形の盆栽を展示したり、珍しい盆栽を展示すれば、更に発展すると思います。
251	さいたま市で高いビルやマンションをペンキや色々なもので模様を描いたりしたら良いと思う。
252	さいたま市の公共の場に文化芸術を置いたらどうか。何故なら芸術といってもどのようなものを作る、描くなど最初は分からないからだ。そのためには、ボランティアなどとコラボ結成し、人々に呼び掛けたりするともっと良くなると思う。
253	私は、映画だと思いました。理由は、「翔んで埼玉」が流行ったからです。とても面白い映画だと思いました。なので、文化芸術都市に発展すると思いました。
254	文化芸術都市として発展するために税金を使うのではなく、もっと他のこと（例：問題などがあるのなら詳しく把握し、解決させるなど）に税金や力を入れてほしい。というか以上のようにすることが表面にあるように市民等が暮らしやすくなったり、さいたま市が住みやすいと感じる割合を2020年までに90%にできる方法の一つだと思う。
255	私は、さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、美術館や図書館、国やさいたま市の魅力や、今まであった出来事、昔と今の違い、昔あった、さいたま市の文化が分かるような施設を作ることが良いと思います。また、町の中に、色々なデザインを取り入れたり、明るい色を多くしたりなど、芸術という部分で、町に彩りと活気を入れていくのが良いのではないかと思います。そして、文化という部分では、昔の文化と今の文化と組み合わせ、より良い文化を作ることが良いと思います。
256	子どもたちだけでなく、地域で何かイベントを行い、高齢者の方たちも一緒に楽しめるようにしたら良いと思う。
257	まず、文化芸術都市とは、「その地独自の文化を尊重・継承し、芸術作品を数多く輩出する都市」のことなのだと思います。そのような都市を目指すためには、まず、子どもたちにその地ならではの文化や伝統を伝える機会を設けて、よりその地の文化や伝統を認知してもらえば良いのではないかと思います。また、何らかの方法で、芸術作品と人々が触れ合う機会を作る必要があると思います。
258	町中に作品を飾ったら良いと思う。どの学校でも「さいたま芸術」というような多目的室などに飾っておくと良いと思う。また、町中というだけでなく、家の塀などにも置いたりしてみたら良いと思う。
259	さいたま市には発展するための資源の中に鉄道、アニメ、コミックなどの「オタク」と呼ばれる人たちが好むものがある。こういうものをさいたま全域に発信していくと良いと思う。何故ならこういうものは好きな人が多いため、こういうものからさいたまの文化や芸術を知ることができると思うからだ。そのためには「オタク」の人たちを引き付けるためにそういうものに関する場所を整備する必要があると思う。そうすることで文化を知ってもらうことができると思う。

No.	提案内容
260	私はさいたま市が文化芸術都市として発展するために、さいたま市の文化資源である漫画に注目しました。漫画よりも小説を勧めることが多いと思いますが、読書が苦手な人にはまず漫画から読み始めてもらった方が良いと思います。大人の方には教育のため漫画を読ませない方が多い気がします。でも、小説と内容はほぼ変わりません。小さい頃から文字数が多い本を読んで読書が嫌いになるより始めは漫画から入り、次はもっと文字が多い本に…とこのように慣れて行った方が良いと思います。なので、図書館にも勉強になる文字の多い漫画を置くなどしたらどうでしょうか。そっちの方が読書離れが少なくなると思います。
261	私が「芸術」と聞いて思い浮かべるものは、私が習っているバレエです。「文化芸術都市」と聞いて、私は浅草のようなところを思い浮かべます。さいたまをそのような「文化芸術都市」にするために、さいたまの文化資源の中にある「漫画」の中の世界を再現したような道または地区を作ってみるのが良いと思いました。そうすれば、漫画の読者などが訪れてもとても楽しめると思われ、芸術をもっと知ってもらえると思います。
262	私はさいたま市が文化芸術都市として発展するには、さいたま市のことをよく知っている人が、さいたま市に関する漫画を描いてヒットさせれば良いと思います。日本の中にも色々な場所を題名にした漫画が多くあるのでそれに便乗すれば良いと思います。そうすれば、さいたま市のことをたくさん知ってもらえるし、漫画にすればユーモアもあって読みやすく、色々な人が読むことができると思います。さいたま市には良いところがたくさんあるので色々な人にさいたま市のことを知ってほしいです。
263	さいたま市がより発展するためには、文化をずっと未来に残し続け、いつまでも継承し続け、日本中にアピールをし、「さいたまってこんなあったんだ。」と思わせ、そして、美術品などだけではなく、緑を増やし、教育などにも力を入れ、埼玉県をより良くし、観光名所などもアピールし、埼玉県はこんなところだよと来た方に教えて、日本で注文してもらうことが埼玉県の発展につながる。
264	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、他都市にはない奇抜なアートを作れば良いと思う。さいたま市と言えば…というものが少ないので、今の流行に沿った、ここでしか見れないようなものを作る。例えば、せんべいに一工夫加えて、若者をターゲットとしたものを作る方には駅のホームの壁に、絵を貼ったりする。また、YouTubeやTwitterなどのSNSを使い広める。若者に興味を持たせることを大切にしつつ元々あるさいたま市ならではのものも生かす。
265	私は、さいたま市が文化芸術都市として発展するには、美術館や博物館を増やすことが大切だと思う。特にさいたま市の歴史や現在を表す作品、展示物を設置すれば、他県や他国から来た人々にもさいたま市を知ってもらうことができる。また、文化や芸術をさいたま市にある建物で表すのも良いと考える。公共の建物の内装や外観にイラストなどを描き、観光客や地元の人々がそれを見ることで、さいたま市に文化芸術都市の印象がつくと思う。
266	まず、さいたま市にある鉄道のまち大宮をもっと鉄道のまつりとしてもっと発展させるべきだと思うし、それが無理なら他のまちを鉄道でいっぱいにしてもらいたい。
267	駅に芸術作品を展示する。行事を作って体験してもらう。外で公演する。
268	・出張鉄道博物館・人形劇・漫画売買(種類を限定して)・出張盆栽館
269	さいたま市が文化芸術都市として発展するためには、美術館や博物館等の文化施設で住民も参加できるようなワークショップ(体験学習etc…)を行ったり、特別展の実施などをすれば、文化的な都市になると思う。
270	文化芸術都市として発展するために、大きな博物館などを作る。
271	さいたま市浦和区北浦和の北浦和公園の中にある近代美術館のような世界の様々な型をした椅子の展示などさいたまは、子どもも多く子どもの遊び場である公園も多いと思うのでアート作品を公園に置いてみるなどさいたま市のみんなが芸術に触れ合うようにできるそんな文化芸術都市にしていったら良いと思う。
272	私は元々、大宮西小学校で「ウエストプラス」というマーチングバンドに所属していました。3年間続けていましたが卒業してからは関わりが薄れ、大好きなマーチングから離れることになりました。楽器を続けたくても、環境やお金の面で続けられません。また、興味があっても同じような理由で音楽から遠くになってしまう人もいるでしょう。そのため私はさいたま市が学校などとは別で音楽を続ける、始める環境をつくってほしいです。神奈川県は一般バンドが多くありますが、さいたまは少ないです。もう1つ、さいたままで活動しているマーチングバンド等をもっと後押ししてほしいです。元々活発に活動していたバンドも、徐々に少なくなってきました。音楽というのはどうしてもお金がかかります。小さな組織で全てを解決しようというのは難しいです。是非、さいたま市が豊かな音楽にあふれるよう、ご助力ください。
273	僕が、文化や芸術と聞いて想像したのは、一番最初に見沼つうせんぼりを思い浮かべました。僕は、見沼つうせんぼりを見たことがないので見てみたいです。僕は、「文化芸術都市」と聞いてそれは、昔からある文化と現代のアート(芸術)的なものが両方あるまちだと思いました。昔からある伝統を大切に現代のアート(芸術)的なものをいっぱいとり入れていくといいと思う。
274	芸術劇場などもあるから、そこで、生のオーケストラの演奏や落語などを聞きたいです。理由は、日本の文化を、子どもの頃から学べば、それを広げていけると思ったからです。芸術劇場などの物をもっと使っていったら良いと思います。
275	さいたま市の歴史博物館の建設をして多くの人にさいたま市の文化や歴史について知ってもらう。学校の行事でさいたま市のツアーをして現在のさいたま市をもっと知ってもらう。町のマンホールをさいたま市ならではのものにデザインすることで文化を身近に感じてもらう。ガードレールをさいたま市の雰囲気に合わせてアレンジをする。以上の取組をしたらもっと良くなると思う。
276	・ごみの分別を正しくする。・緑(自然)を増やす。・盆栽を利用した祭り。・イルミネーション。・電柱を道路の下へ。・美術館や文化館を建てて、小・中学生が校外学習で見学する。・歩道橋をカラフルにする。(ピアノの鍵盤のイラストなど)・道路をきれいにする。・人が集まるところに盆栽を飾る。(さいスタなど)・ステンドグラス(市内の小・中学生が作る)→区役所のガラスなどに貼る。以上のことをするのはどうだろうか。